

# 授 業 概 要

平成24年度

2年次生  
3年次生

群馬医療福祉大学 看護学部

〒375-0024 群馬県藤岡市藤岡787-2

TEL 0274-24-2941

FAX 0274-23-4160

# 目 次

## 授 業 内 容

専門演習Ⅰ	1
日本と世界の関係	3
教育と学習の原理	4
教育心理	5
教育方法	6
健康教育論	7
教育相談論	8
教職実践演習	9
基礎英語Ⅱ	10
医療英会話	11
スポーツ演習Ⅱ	12
疾病・治療論各論Ⅰ-1	13
疾病・治療論各論Ⅰ-2	14
疾病・治療論各論Ⅱ-1	15
疾病・治療論各論Ⅱ-2	16
疾病・治療論各論Ⅲ	17
臨床病理病態論	18
栄養の基礎と応用	19
保健医療福祉と行政	20
年金・医療・介護保険制度	21
看護診断と看護治療	22
施設・病棟統合実習	23
地域看護学概論Ⅰ	24
地域看護学概論Ⅱ(在宅看護論)	25
在宅看護援助論	26
在宅看護援助技術	27
地域看護活動総論	28
養護概説	29
学校保健活動論Ⅰ	30
学校保健活動論Ⅱ	31
在宅看護論実習	32
精神看護学概論	33

精神看護学援助論Ⅰ	34
精神看護学援助論Ⅱ	35
精神看護学実習	36
母性看護学概論	37
母性看護学援助論Ⅰ	38
母性看護学援助論Ⅱ	39
母性看護学実習	40
小児看護学概論	41
小児看護学援助論Ⅰ	42
小児看護学援助論Ⅱ	43
小児看護学実習	44
成人看護学概論	45
成人看護学援助論Ⅰ	46
成人看護学援助論Ⅱ	47
成人看護学援助論Ⅲ	48
成人看護学援助論Ⅳ	49
臨床看護学実習Ⅰ(成人老年・慢性期)	50
臨床看護学実習Ⅱ(成人老年・急性期)	51
老年看護学概論	52
老年看護学援助論Ⅰ	53
老年看護学援助論Ⅱ	54
老年看護学実習Ⅰ	55
老年看護学実習Ⅱ	56
看護活動におけるメンバーシップ・リーダーシップ	57
感染・災害看護と危機管理(国際協力を含む)	58
看護研究概論	59

科目名	専門演習Ⅰ			担当教員 (単位認定者)	クラス担任 専任教員	単位数	1
対象学年	3	授業方法	講義・演習・実習		必修・選択	必修	

#### ■授業の到達目標・期待される学習効果

本学の建学の精神を身につけ、高度な専門知識と豊かな人間性及び人間愛並びに奉仕の精神を備え、さらに自立心と礼儀を重んじ自立した社会人・看護専門職者としてのスキルアップを図る。

#### ■授業の概要

建学の理念や教育方針に従って、地域連携、環境美化活動、日常生活において自立的実践能力及び看護専門職としての基礎的能力を高めるための学習をする。生活指導、学習指導、進路指導、資格取得に関わる指導・助言を行う。

#### ■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	オリエンテーション 学長訓話 シラバスの説明 クラス運営方針 自己の目標設定	短期・長期目標について考える
第2回	基礎演習Ⅰ・Ⅱの振り返りと課題の確認、専門演習Ⅰの方向付け	基礎演習Ⅰ・Ⅱの復習をしておく
第3回	学内親睦体育大会準備(1)	クラス内の連携をはかること
第4回	学内親睦体育大会準備(2)	クラス内の連携をはかること
第5回	進路決定に向けて(1) 看護専門職としての資格取得と看護活動	テーマに関する情報収集をし学習しておく
第6回	進路決定に向けて(2) 国家試験対策の心構え	テーマに関する情報収集をし学習しておく
第7回	進路決定に向けて(3) 進学・就職対策の心構え	テーマに関する情報収集をし学習しておく
第8回	課題学習(1)「災害時の対応」現状の把握	資料収集
第9回	課題学習(2)「災害時の対応」課題の分析	課題を明確にしておく
第10回	課題学習(3)「災害時の対応」将来の展望	将来の展望を明確にしておく
第11回	特別講義 現場で活躍する看護専門職者の声 求められる看護専門職者像 (諸先輩方との交流)	テーマに関する情報収集をする
第12回	建学の精神と実践プログラム(1) 臨地実習(前期)の学習のまとめとミニ国試対策(1)	前期の臨地実習での記録物の確認及び学習したことを整理しておく
第13回	建学の精神と実践プログラム(2) 臨地実習(前期)の学習のまとめとミニ国試対策(2)	前期の臨地実習での記録物の確認及び学習したことを整理しておく
第14回	建学の精神と実践プログラム(3) 「臨地実習での学びと自己課題」のレポート作成	前期の臨地実習での記録物の確認及び学習したことを整理しておく
第15回	3学年夏期オリエンテーション 学長訓話 前期総括	前期総復習

#### ■履修上の注意

- ①本科目は本学の人間教育の要である。そのことを深く留意して取り組むこと。
- ②欠席・遅刻は厳禁。やむを得ない場合は事前に届け出ること。
- ③私語は慎み、積極的な姿勢で授業に臨むこと。
- ④学年全体のオリエンテーション等の学校行事には必ず出席すること。

#### ■評価方法

- ①平常点(授業への取り組み、受講態度、出欠席状況)50%
  - ②提出物および期限厳守(30%)
  - ③建学の精神の理解度、実践度(20%)
- ①～③を総合的に評価する

#### ■教科書

「咸有一徳」

#### ■参考書

講義の中で適宜紹介していく

科目名	専門演習Ⅰ			担当教員 (単位認定者)	クラス担任 専任教員	単位数	1
対象学年	3	授業方法	講義・演習・実習		必修・選択	必修	

### ■授業の到達目標・期待される学習効果

本学の建学の精神を身につけ、高度な専門知識と豊かな人間性及び人間愛並びに奉仕の精神を備え、さらに自立心と礼儀を重んじ自立した社会人・看護専門職者としてのスキルアップを図る。

### ■授業の概要

建学の理念や教育方針に従って、地域連携、環境美化活動、日常生活において自立的実践能力及び看護専門職としての基礎的能力を高めるための学習をする。生活指導、学習指導、進路指導、資格取得に関わる指導・助言を行う。

### ■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第16回	後期オリエンテーション 学長訓話 建学の精神と実践プログラム(4) 「建学の精神の実践」; 環境美化活動	基礎演習Ⅱの復習をしておく
第17回	建学の精神と実践プログラム(5) 「建学の精神の実践」; 地域連携	「建学の精神」についてこれまでの講義の復習をしておく
第18回	看護研究文献検索① ※ミ二国試対策(3)	既に学んだ看護研究概論・看護研究方法論の復習をしておくこと
第19回	看護研究文献検索② ※ミ二国試対策(4)	研究テーマに関する文献を読む看護研究に関する専門書を読む
第20回	看護研究; 文献検索とグループ学習 ※ミ二国試対策(5)	検索した文献を読み、整理する
第21回	昌賢祭 発表準備 ※ミ二国試対策(6)	研究テーマに関する文献を読む看護研究に関する専門書を読む
第22回	昌賢祭 発表準備 ※ミ二国試対策(7)	研究テーマに関する文献を読む看護研究に関する専門書を読む
第23回	昌賢祭 発表準備 ※ミ二国試対策(8)	研究テーマに関する文献を読む看護研究に関する専門書を読む
第24回	昌賢祭 発表準備 ※ミ二国試対策(9)	研究テーマに関する文献を読む看護研究に関する専門書を読む
第25回	研究発表	研究テーマに関する文献を読む看護研究に関する専門書を読む
第26回	国家試験対策; 看護師国家試験模擬試験①	国家試験問題集を活用し、国家試験科目全般にわたる学習をする
第27回	国家試験対策; 看護師国家試験模擬試験②	国家試験問題集を活用し、国家試験科目全般にわたる学習をする
第28回	国家試験対策; 看護師国家試験模擬試験③ 解説	国家試験問題集を活用し、国家試験科目全般にわたる学習をする
第29回	特別講義(トピックス)	テーマに関する情報収集をしておく
第30回	学年末オリエンテーション 学長訓話 「私の進路と今後の取り組み」 レポート作成	後期総復習

### ■履修上の注意

- ①本科目は本学の人間教育の要である。そのことを深く留意して取り組むこと。
- ②欠席・遅刻は厳禁。やむを得ない場合は事前に届け出ること。
- ③私語は慎み、積極的な姿勢で授業に臨むこと。
- ④学年全体のオリエンテーション等の学校行事には必ず出席すること。

### ■評価方法

- ①平常点(授業への取り組み、受講態度、出欠席状況)50%
  - ②提出物および期限厳守(30%)
  - ③建学の精神の理解度、実践度(20%)
- ①~③を総合的に評価する

### ■教科書

「咸有一徳」

### ■参考書

講義の中で適宜紹介していく

科目名	日本と世界の関係		担当教員 (単位認定者)	久山 宗彦	単位数	1
対象学年	3	授業方法	講義・演習・実習		必修	選択

■授業の到達目標・期待される学習効果

最終的には、世界の国々の中での日本が、それらの国々とのように関わっていけばよいかに関心を持ち取分け、問題を抱えている外国の人たちにもどのように関わり、どのようにサポートできるかまで考える人になってもらいたい。

■授業の概要

国際化した現代社会において、われわれはどう立ち向かっていけばよいか。世界の諸事情と日本との関係を知り、自らの歩む道について考える。さらに、日本と世界の関係がどう発展したらよいか、ディスカッションする。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	文化・宗教が生まれる背景の違いからくる世界と日本の違い	「政治と宗教の分離」と「国家と教会の分離」の違いについて理解する。
第2回	脱亜入欧かアジア・中東か	福沢諭吉が語った脱亜入欧は、今日の日本人はどのように見ているか理解する
第3回	イスラーム医療とイスラームのホスピス精神、そして赤十字社と赤新月社	イスラームは「死」(モート)をどのようにとらえているか理解する。
第4回	国際貢献とは -湾岸戦争・イラク戦争とイラク弱者に対する救援活動-	真の国際貢献(真の国際ボランティア活動)について理解する。
第5回	平和憲法の共有	日本にとっても諸外国にとっても重要な憲法第9条について理解する
第6回	和の文化と神の文化 -グローバルゼーション・ナショナリゼーションを巡って-	両者は繰り返しながら、近代史は動いていっている様子を理解する
第7回	歴史・政治・外交面から見る朝鮮半島と日本、日中、日米関係	明治以降の日本の関わりについて理解する。
第8回	個性と異文化の格闘・異文化理解、そして外国語	異文化を乗り越える経験から真の教養が身につけていくことを理解する。

■履修上の注意

いつも世界の国々に関わる日本のニュースにも関心を持っていただきたい。理解補助のためのプリントを必要に応じて配布する。

■評価方法

出席状況・ミニレポート・学習意欲・最終レポートで総合的に評価する。

■教科書

久山宗彦著「神の文化と和の文化」(北樹出版)

■参考書

講義の中で適宜紹介する。

科目名	教育と学習の原理			担当教員 (単位認定者)	島田 昌幸	単位数	1
対象学年	3	授業方法	(講義)・演習・実習	必修・選択		必修	

■授業の到達目標・期待される学習効果

教育と学習の意義を多面的に問い直し、自己教育の視点から役立てる方法を検討する。

■授業の概要

教育とは何か、学習とは、…等々、日常生活の中で見過ごしている教育の諸問題を検討する。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	序章 授業案内 第1章 教育と学習の本質、特徴	復習 テキストと配布資料を読む
第2回	第2章 教育と学習をめぐる諸問題	復習 テキストと配布資料を読む 「課題」の検討
第3回	第3章 教育と評価	復習 テキストと配布資料を読む 「課題」に取り組む
第4回	第4章 授業の方法	復習 テキストと配布資料を読む 「課題」に取り組む
第5回	第5章 ガイダンス	復習 テキストと配布資料を読む 「課題」に取り組む
第6回	第6章 カリキュラム	復習 テキストと配布資料を読む 「課題」に取り組む
第7回	第7章 教育の歴史と学校	復習 テキストと配布資料を読む 「課題」に取り組む
第8回	総括 自作教材の発表と評価	復習 発表された作品から学ぶ

■履修上の注意

試験の他にレポート課題提出があり、評価の対象になる。

■評価方法

試験(40%)、レポート(40%)、授業への参加態度(20%)

■教科書

島田昌幸著「教育と学習の原理」研文社、2012年

■参考書

授業の中で紹介する。

科目名	教育心理			担当教員 (単位認定者)	清水 敦彦	単位数	1
対象学年	3 (前期)	授業方法	講義・演習・実習	必修・選択		選択	

### ■授業の到達目標・期待される学習効果

1. 子どもはどのような経験をする中で学習し、発達するかという問題と関連させながら、子どもの望ましい発達を促す教育とはどのようなものか、大人は子どもにどのように働きかけたら良いのかについてさまざまな心理学上の理論に基づいて考える知識を習得する。
2. 発達・学習の二つの考え方が、現代の教育の問題とどう関連しているのか。発達・学習のとらえ方と教育の方法、理論の方法、理論的背景や人間観・発達観も含め習得する。道徳性・社会性の発達と教育では、子どもの能動性・主体性を尊重しつつ望ましくない行動を変えていくにはどのようなしたらよいかについて考える。自己学習を可能にするものでは、自らが学べることに必要なものとして内発的動機づけや自己効力感、メタ認知などについて習得する。

### ■授業の概要

- ・第I部 発達と教育では、大人主導的な関わり方と大人は子どもが自ら発達するのを援助するというあり方—を取り上げ、その二つの考え方が現代の教育の問題とどう関連しているのか、損保概要を示す。
- ・第II部 発達・学習のとらえ方と教育の方法、理論的背景や人間観・発達観も含め論づる。
- ・第III部 道徳性・社会性の発達と教育では、子どもの能動性・主体性を尊重しつつ望ましくない行動を変えていくにはどうしたらよいかについて考える。
- ・第IV部 自己学習を可能にするものでは、自から学ぶことに必要なものとして、内発的動機づけや自己効力感、メタ認知について述べ、それらがうまく機能しない子どもにどう対処したらよいかについて、無力感を中心に考える。

### ■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	科目オリエンテーション 第I部 ◆教育心理学とは ◆教育がもつ2つの側面と、現在の教育状況 ◆発達における経験の重要性と発達の可塑性	
第2回	第II部 発達・学習のとらえ方と学習の方法 ◆大人主導の発達・学習・教育観—行動主義の学習・教育観	第1回課題
第3回	◆子どもの能動性を重視する発達・学習・教育観	
第4回	◆子どもの能動性を考慮しつつ大人の働きかけを重視する発達・学習・教育観 —認知心理学の立場—	
第5回	第III部 道徳性・社会性の発達と教育 ◆大人主義の道徳性発達の考え方	第2回課題
第6回	◆道徳性の認知発達理論 —子どもの能動性を重視する立場— ◆道徳性・社会性の発達における大人の役割—望ましくない行動への対処—	
第7回	第IV部 自己学習を可能にするもの ◆内発的動機づけ ◆自己効力感、有能感	
第8回	◆メタ認知 ◆まとめ	第3回課題

### ■履修上の注意

教育心理学に関心を持ち、報告課題に対しても真剣に取り組むこと。

### ■評価方法

出席状況と受講態度、提出物によって総合的に評価する

### ■教科書

山岸 明子 著：発達をうながす教育心理学，親曜社，2009.

### ■参考書

講義の中で適宜提示する。



科目名	教育方法			担当教員 (単位認定者)	島田 昌幸	単位数	1
対象学年	3	授業方法	(講義)・演習・実習	必修・選択		選択	

■授業の到達目標・期待される学習効果

問題事例の検討、授業のシステム化、情報機器活用等、教育方法の学習を通して、独自の自作教材を開発する。

■授業の概要

教育方法の内容を概観すると同時に授業に役立てる自作教材の開発の方法を紹介する。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	序章 授業案内 第1章 教育方法の意義と内容	復習 テキストと配布資料を読む
第2回	第2章 授業の方法	復習 テキストと配布資料を読む 「課題1」の検討
第3回	第3章 教材開発の方法	復習 テキストと配布資料を読む 「課題2」や「課題3」のテーマの検討
第4回	自作テキスト教材の特徴	復習 テキストと配布資料を読む
第5回	第4章 情報機器の活用の方法	「課題2」や「課題3」の作成に取り組む
第6回	第5章 授業評価の方法	「課題2」や「課題3」の作成に取り組む
第7回	第6章 授業の実践と評価	「課題2」や「課題3」の作成に取り組む
第8回	総括 自作教材の発表と評価	発表された作品から学ぶ

■履修上の注意

試験の他にレポート課題提出があり、評価の対象になる

■評価方法

試験(40%)、レポート(40%)、授業への参加態度(20%)

■教科書

島田昌幸著「教育方法論」研文社、2012年

■参考書

授業の中で紹介する。

科目名	健康教育論			担当教員 (単位認定者)	鹿間 久美子	単位数	1
対象学年	3	授業方法	(講義)・演習・実習	必修・選択		選択	

### ■授業の到達目標・期待される学習効果

健康教育やヘルスプロモーションの考え方を理解する。行動変容を促す健康教育の理論と方法をあげることができる。健康教育のテーマを決めて学習指導案を作成し実践することにより、健康教育を実際の養護実習の場において活用する準備ができる。

### ■授業の概要

ヘルスプロモーションにおける健康教育の理念を学び、主体的に行動変容を促す健康教育の手法を用いた、計画段階から評価までのプロセスを具体的な事例で確認する。その後、行動変容を促す健康教育の手法を用いた健康教育の学習指導案を作成して発表を行い、評価につなげる。

### ■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	科目オリエンテーション・健康教育の概要	学校保健Ⅰ・Ⅱおよび関連 教科の内容の確認
第2回	健康教育プログラムの計画と評価	教科書の①第2章の確認
第3回	健康教育・ヘルスプロモーションの展開と方法	教科書の①第4章の確認
第4回	健康教育の実施1(演習)	教科書の事例を参考に、健康教育のテーマの決定
第5回	健康教育の実施2(演習)	教科書の②第3章の確認 健康教育の指導案の作成
第6回	健康教育の実施3(演習)	教科書の②第4章の確認 健康教育の指導案の作成
第7回	健康教育の実施4(演習)	発表準備
第8回	健康教育の発表	発表準備と改善点の確認

### ■履修上の注意

- 予習段階での疑問点などは関連する科目の教科書や文献を検索し、さらに疑問点が残る場合は積極的に質問を行う姿勢で授業に臨むこと。また、教科書や当日の記録などを基に十分な復習を行う。
- 授業中、他の学生の学習権を侵害する行為(私語・複数回の遅刻・不適切な授業態度など)には注意を促し、改善が見られない場合は、当該学生と面談して相応な対処を行う。

### ■評価方法

筆記試験40%・指導案の作成と発表50%・出席状況10%

### ■教科書

- ①日本健康教育士養成機構編：新しい健康教育—理論と事例から学ぶ健康増進への道、保健同人社、2011.
- ②鹿間久美子：性の健康教育と養護教諭の役割—L.A. カーケンダールの性教育論を基にした理論と実践の研究一、考古堂書店、2010.

### ■参考書

全国養護教諭連絡協議会：養護教諭がかかわる健康教育実践事例集、平成8年。

科目名	教育相談論			担当教員 (単位認定者)	鹿間 久美子	単位数	2
対象学年	3	授業方法	講義・演習・実習	必修・選択		選択	

### ■授業の到達目標・期待される学習効果

学校における教育相談の意義と役割がわかる。養護教諭が行う健康相談活動の重要性を認識して、さまざまな課題について理解を深める。エビデンスに基づく分析ができるようになり、人権や主体性を尊重しながら、養護教諭として児童生徒とかかわることができるようになる。

### ■授業の概要

学校における教育相談の役割と意義を概説し、養護教諭が行う健康相談活動に焦点化して、学校現場で健康相談活動の理論に基づいた、実践が行えるように、不登校や発達障害・反社会的な行動・被虐待などさまざまな事例を通して、臨床的背景の理解と効果的な支援方法を教授する。

### ■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	科目オリエンテーション・学校における教育相談の意義と役割	「教育相談」の用語を調べて定義しておく
第2回	主なカウンセリング理論の理解（認知行動療法を中心に）	既習の関連教科の内容を想起し、教科書ノートを確認する
第3回	児童生徒の支援を行うための記録の仕方と分析について	看護記録も含めてさまざまな記録方法を確認し、比較する
第4回	児童生徒理解のための主なアセスメント技法（セルフエスティームの確認・エゴグラム）	身近な人を対象にアセスメント技法を練習する
第5回	教育相談と健康相談活動の基本的理解	教育相談と健康相談活動について相違点をまとめる
第6回	児童生徒の心身の健康問題の現状と背景	身近な事例に注目して現状を確認しておく
第7回	健康相談活動の原理・構造と必要な資質・能力・技能	具体的な健康相談活動に向けて実践の方法を確認する
第8回	保健室における健康相談活動の初期対応	保健室に限定した健康問題の事例を確認する。
第9回	保健室を想定したロールプレイ1（演習）	ロールプレイの展開内容を準備する
第10回	保健室を想定したロールプレイ2（演習）	ロールプレイの展開内容を準備し評価につなげる
第11回	保健室登校について（グループ討議）	保健室登校の定義や事例について確認をしておく
第12回	健康相談活動における連携と評価	養護教諭の連携について確認をしておく
第13回	事例研究1（演習）	グループごとにテーマを決め場面設定を行う準備をする
第14回	事例研究2（演習）	実際に事例検討会を行う体制を作る
第15回	事例研究3（発表）	まとめと評価

### ■履修上の注意

○前期学校保健活動論Ⅰ・Ⅱ、養護概説を基に授業を行うので、予習段階での疑問点などは関連する科目の教科書や文献を検索し、授業に備える。  
○授業中、他の学生の学習権を侵害する行為（私語・複数回の遅刻・不適切な授業態度など）には注意を促し、改善が見られない場合は、当該学生と面談して相応な対処を行う。

### ■評価方法

筆記試験50% 演習参加活動状況40% 出欠状況10%

### ■教科書

三木とみ子・徳山美智子編：健康相談活動の理論と実際—どう学ぶかどう教えるか—、ぎょうせい、2007

### ■参考書

講義の中で適宜紹介していく

科目名	教職実践演習			担当教員 (単位認定者)	鹿間 久美子	単位数	2
対象学年	3	授業方法	講義・演習・実習		必修・選択		選択

### ■授業の到達目標・期待される学習効果

教職に関する科目と、養護に関する科目の学校保健Ⅰ・学校保健Ⅱ・養護概説で学んだ内容の統合を図り、使命感や責任感に裏付けられた確実な実践的指導力およびケアリング力を有する養護教諭としての資質能力を身に付けることができる。

### ■授業の概要

学校教育における諸活動を通じて、養護教諭の確実な実践的指導力およびケアリング力が身に付くように、講義や演習、ロールプレイやプレゼンテーションなどを組み合わせて、実際の学校教育の場を想定した教育課題を取り扱う。またゲストティーチャーを活用して、専門的な事項や現場における諸活動についての理解を深めることができるように構成する。

### ■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	科目オリエンテーション・教職の意義および教員の役割と職務内容	(4年次教職概論で復習)
第2回	教育の本質と教育に関する考え方	教育と学習の原理参照
第3回	子どもの権利条約と養護教諭(グループ討議)	養護概説参照
第4回	発達段階に応じた学習や指導の過程	教育方法論参照
第5回	学校教育の制度と教育課程の編成	(4年次教育課程論で復習)
第6回	教育方法と技術	教育方法論参照
第7回	養護教諭の専門性(グループ討議)	養護概説参照
第8回	特別活動・総合的な学習の時間などにおける養護教諭の関わり(グループ討議)	健康教育論参照
第9回	生徒指導・キャリア教育・教育相談と養護教諭(グループ討議)	(4年次生徒指導論で復習) 教育相談論参照
第10回	学習指導案と模擬授業・板書の理論1(演習)	教育方法論・健康教育論参照
第11回	学習指導案と模擬授業・板書の理論2(演習)	教育方法論・健康教育論参照
第12回	習熟度別少人数指導・特別支援教育	(4年次教職概論で復習)他
第13回	PTA・学校評議員・学校保健会委員・地域活動諸団体などとの連携(ゲストティーチャー)	学校保健Ⅰ・Ⅱ参照
第14回	養護教諭のコーディネートの力量(グループ討議)	養護概説参照
第15回	養護教諭のマネジメントの力量(グループ討議)	養護概説参照

### ■履修上の注意

○1・2年次および3年次前期で学んだ科目内容を基に授業を行うので、予習段階での疑問点などは関連する科目の教科書や文献を検索し、さらに疑問点が残る場合は積極的に質問を行う姿勢で授業に臨むこと。また、教科書や当日の記録などを基に十分な復習を行う。  
○授業中、他の学生の学習権を侵害する行為(私語・複数回の遅刻・不適切な授業態度など)には注意を促し、改善が見られない場合は、当該学生と面談して相応な対処を行う。

### ■評価方法

筆記試験50% 課題レポート40% 出欠状況10%

### ■教科書

中野啓明編：現代の教職原理、考古堂、2008  
齋藤勉：授業批評の力を鍛える、明治図書、2007

### ■参考書

梶田叡一：確かな学力の育成と評価のあり方、金子書房、2010

科目名	基礎英語Ⅱ			担当教員 (単位認定者)	飯野 順子	単位数	1
対象学年	2(前期)	授業方法	講義・演習・実習		必修・選択		選択

■授業の到達目標・期待される学習効果

長文の要旨が早く正確につかめる。  
事実とともに心情、感覚なども読み取れる。

■授業の概要

American Journal of Nursingという看護師向けの雑誌の抜粋を読みながら、読解力の向上をはかる。  
担当を決め、演習形式で行う。  
医療英会話と同じ教科書なので、時には会話も取り入れて楽しむ。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	Unit3: I AM Mother Teresa I: 音読練習。 出来事を起きた順番に追う。人物像を描く。	復習: 好きなパラグラフを音読
第2回	Unit 4: The Faces Pain Scale 表情と痛みの尺度を表す英文を結びつける。	予習: FPS-Rの意味を知る。 復習: p.29 Exercise 2
第3回	Unit 6: A Nurse on Mars? 七つのパラグラフの要旨を発表する。 Exercise 1で全体の要旨を把握する。	予習: パラグラフ二つ音読 復習: 最終パラグラフの音読
第4回	Unit 8: Awakenings I 「レナードの朝」のビデオ鑑賞	
第5回	Unit 8: Awakenings I I 「レナードの朝」のビデオの感想。場面と英文の照合。	予習: 第一パラグラフ音読 復習: 第二パラグラフの意味
第6回	Unit 9: Animal Assisted Therapy アニマル・セラピーの効果をまとめる。	予習: 第三パラグラフ音読 復習: Exercise 1
第7回	Unit 10: Surviving the Night Shift 夜勤対策の英文と絵を結びつける。	予習: 第一パラグラフ音読 復習: Exercise 1
第8回	Unit 13: Touchy-Feely Stuff 英文の正誤問題に取り組む。	予習: 第一、二パラグラフ音読

■履修上の注意

自分自身で選択した科目であることを常に意識して、授業や予習、復習に取り組んで欲しい。  
読解中心の授業ですが音読は英文理解の大事な要素です。授業前には付属のCDを使用して是非練習してきて下さい。

■評価方法

出席、定期試験、授業態度により総合的に評価する。

■教科書

LIFESAVER (MACMILLAN LANGUAGEHOUSE)

■参考書

科目名	医療英会話			担当教員 (単位認定者)	飯野 順子	単位数	1
対象学年	2(前期)	授業方法	講義・(演習)・実習		必修・選択		選択

■授業の到達目標・期待される学習効果

看護現場で患者やスタッフと、深く正確な意思疎通ができる。  
覚えた表現を現場で応用できる。

■授業の概要

音声中心の授業である。医療現場でのモデル会話を練習し使用頻度の高い表現を覚える。  
看護の専門用語の発音や聴き取りの訓練も行う。  
役割練習で看護師としての指示や説明を行ってみる。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	Unit 4: 行き先を案内する。 Unit 5: 症状を尋ねる。	復習: p.32
第2回	Unit 6: 痛みの場所を尋ねる。 Unit7: 症状の持続時間を尋ねる。	予習: CD 15 復習: p.48
第3回	Unit 8: 病歴を尋ねる。 現在完了形の使い方	予習: CD 21 復習: p.48
第4回	Unit 9: 検査の手順を説明する I Unit 10: 検査の手順を説明する II	予習: CD 24 復習: p.72
第5回	Unit 11: 入院患者との会話	予習: CD 30 復習: p.82
第6回	Unit 12: 手術前後の説明 Unit 13: 薬の説明	予習: Exercise on p.88 復習: Exercise 1 on p.96
第7回	Unit 14: 心配事を聞く。 Unit 2: 励ましの声をかける。	予習: Exercise on p.104 復習: CD 4
第8回	Unit 15: 退院後の説明をする。	予習: CD 42 復習: p.112

■履修上の注意

実践で役立つ英会話は、身体で覚えたものです。普段から、教科書付属のCDを繰り返し聞き流し、英語の音に慣れておいて下さい。そして授業中は耳、口、身振りを最大限使って、パートナーと意思疎通を図る努力をして下さい。

■評価方法

出席、授業態度、定期試験によって総合的に評価する。

■教科書

LIFESAVER (MACMILLAN LANGUAGEHOUSE)

■参考書

--



科目名	スポーツ演習Ⅱ			担当教員 (単位認定者)	高橋 良枝	単位数	1
対象学年	2	授業方法	(講義)・演習・実習	必修・選択		選択	

■授業の到達目標・期待される学習効果

明るく豊かな人生を送る上で、生涯にわたって運動やスポーツが必要性を認識し、健康の保持増進や体力の向上を目指し、日常生活のなかで継続して行えるようになる。

■授業の概要

運動やスポーツの楽しさと必要性を十分理解し、その楽しみ方を身につけ、これからの社会生活を充実して生きていくために、誰とでも協調性を養える運動・スポーツを体験する。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	オリエンテーション（授業の進め方説明・グループづくり）コミュニケーション・ゲーム	楽しい雰囲気づくりと相互の協力を図れるよう促す
第2回	陸上（持久走）	走の基本特性に触れ運動体感を刺激し楽しく走る
第3回	ソフトボール	打つ・守る・走る・投げるの基本技術を確認する
第4回	ソフトボール	安全に留意し対戦を実施する
第5回	バレーボール	これまでの経験や技能・知識レベルを確認する
第6回	バレーボール	安全に留意し対戦を実施する
第7回	ユニホック	ニュースポーツを体験する
第8回	インディアカ	ニュースポーツを体験する
第9回	フットサル	これまでの経験や技能・知識レベルを確認する
第10回	フットサル	安全に留意し対戦を実施する
第11回	バトミントン	基本知識を学習し基本技術を身につける
第12回	バトミントン	安全に留意し対戦を実施する
第13回	バスケットボール	連携プレーでゲームが進められるよう練習する
第14回	バスケットボール	安全に留意し対戦を実施する
第15回	大会・運営 まとめ	学習成果の発表の場として大会を運営・協力し成功させる

■履修上の注意

自分の能力・適正や興味・関心をしっかり見つめ、授業のルールを守り、自ら学ぶ態度での授業参加を求めます。

■評価方法

授業態度60%・実技能力30%・出席状況10%

■教科書

■参考書

科目名	疾病・治療論各論I-1		担当教員 (単位認定者)	栗原 卓也, 竹内 法明, 浜田 邦弘, 他	単位数	2
対象学年	2	授業方法	講義・(演習)・実習	必修・選択	必修	

■授業の到達目標・期待される学習効果

脳・中枢神経系、消化器系、腎・泌尿器系、循環器系、呼吸器系、血液疾患、膠原病、アレルギーの代表的疾患についてその病態生理、発生機序、臨床的所見、基本的治療の方法について学習し、健康障害のある対象のアセスメントができるようにするとともに患者指導や適切な援助を導きだすための基礎知識を身につけることを目標とする。

■授業の概要

1. 脳・中枢神経系の疾患の病態生理、検査、症状、基本的治療について学ぶ。(6コマ)
2. 消化器系の疾患の病態生理、検査、症状、基本的治療について学ぶ。(6コマ)
3. 腎・泌尿器系の疾患の病態生理、検査、症状、基本的治療について学ぶ。(4コマ)

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	A. 脳神経系疾患の病態生理、所見、検査、主な治療 a. 脳血管系の循環障害: 1. クモ膜下出血 2. 脳内出血 3. 脳梗塞	
第2回	b. 頭蓋内圧亢進に伴う症状・疾患: 1. 脳腫瘍 2. 脳ヘルニア 3. 水頭症	
第3回	c. 頭部と脊髄の外傷: 1. 頭部外傷 2. 硬膜外血腫 3. 硬膜下血腫 4. 水頭症	
第4回	d. 神経変性・脱髄性の疾患: 1. 脱髄疾患 2. パーキンソン病 3. 多発性委縮症 e. 認知症: 1. アルツハイマー病 2. 脳血管性認知症 3. ビック病	
第5回	f. 中枢神経系の感染症 1. 脳炎 2. 髄膜炎 3. その他の神経系感染症 1) エイズに伴う神経障害 2) 神経梅毒 3) 破傷風 4) クロイツフェルト・ヤコブ病 g. 二次的に意識障害、神経障害を起こす疾患 1. 肝性脳症 2. 糖尿病昏睡 3. 主な中毒性疾患	
第6回	h. 神経難病: 1. ギラン・バレー症候群 2. ALS 3. 重症筋無力症 4. 筋ジストロフィー i. 糖尿病性神経障害: 1. 糖尿病性ニューロパチー	
第7回	B 消化管の疾患の病態生理、所見、検査、主な治療 a. 消化管の炎症と潰瘍 1. 食道アカラシア 2. 胃・食道逆流症 3. 胃炎 4. 胃・十二指腸潰瘍 5. 過敏性腸症候群 6. 腸炎 1) 潰瘍性大腸炎 2) クロウン病 3) 腸結核 4) 虚血性大腸炎 7. 腹膜炎 8. 虫垂炎	
第8回	b. 消化管の腫瘍: 1. 食道がん 2. 胃がん 3. 腸管ポリープ	
第9回	b. 消化管の腫瘍: 4. 結腸がん・直腸がん c. イレウス: 1. イレウス 2. ヘルニア 3. 消化管憩室	
第10回	C. 肝臓・胆嚢・膵臓の疾患の病態生理、所見、検査、主な治療 a. 肝臓・胆嚢・膵臓の炎症 1. 肝炎 1) 急性肝炎(A型、B型、C型) 2) 劇症肝炎 3) 慢性肝炎 4) 脂肪肝	
第11回	2. 肝硬変 3. 肝不全 4. 肝臓・胆嚢・膵臓の腫瘍 1) 肝臓がん 2) 胆管がん 3) 胆嚢がん 4) 膵臓がん	
第12回	5. 胆嚢炎・胆管炎 6. 膵臓炎 7. 胆石	
第13回	D. 泌尿器の疾患の病態生理、所見、検査、主な治療 a. 腎・尿路の炎症 1. 糸球体腎炎 2. ネフローゼ症候群 3. 急性間質性腎炎 4. 慢性間質性腎炎 5. 腎盂腎炎 6. 膿腎症 7. 膀胱炎 8. 尿道炎 9. 前立腺炎 10. 精巣上体炎 11. 精巣炎	
第14回	b. 腎・尿路の腫瘍 1. 腎実質腫瘍 2. 腎盂及び尿管腫瘍 3. 膀胱腫瘍 4. 尿道腫瘍 5. 精巣腫瘍 6. 前立腺がん 7. 陰茎がん	
第15回	c. 腎・尿路の通過障害 1. 尿路結石 2. 前立腺肥大症 3. 水腎症 4. 膀胱尿逆流症 5. 神経性膀胱 6. 尿路結石 7. 失禁	
第16回	d. 腎不全: 1. 急性腎不全 2. 慢性腎不全 e. 腎・尿管の感染症: 1. 尿路結核 2. 性感染症	

■履修上の注意

■評価方法

■教科書

- 1) 竹村信彦他: 系統看護学講座成人看護学[7]脳・神経 医学書院
- 2) 金田智他: 系統看護学講座成人看護学[5]消化器 医学書院
- 3) 大東貴志他: 系統看護学講座成人看護学[8]腎・泌尿器 医学書院

■参考書

講義の中で適宜提示する。



科目名	疾病・治療論各論I-2		担当教員 (単位認定者)	近藤 武, 牧野 荘平, 根本 俊和	単位数	2
対象学年	2	授業方法	講義・演習・実習	必修・選択	必修	

■授業の到達目標・期待される学習効果

脳・中枢神経系、消化器系、腎・泌尿器系、循環器系、呼吸器系、血液疾患、膠原病、アレルギーの代表的疾患についてその病態生理、発生機序、臨床的所見、基本的治療の方法について学習し、健康障害のある対象のアセスメントができるようにするとともに患者指導や適切な援助を導きだすための基礎知識を身につけることを目標とする。

■授業の概要

4. 循環器・呼吸器系の疾患の病態生理、検査、症状、基本的治療について学ぶ。(5+5コマ)
5. 血液疾患、膠原病、アレルギーの疾患の病態生理、検査、症状、基本的治療について学ぶ。(4コマ)

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第17回	E. 心臓、循環器系の疾患の病態生理、所見、検査、主な治療 a. 虚血性疾患 1. 狭心症 2. 心筋梗塞	
第18回	b. 心不全 c. 不整脈	
第19回	d. 心筋症 1. 心筋症 2. 心筋炎 3. 心臓の腫瘍 e. 心内膜炎と弁膜疾患	
第20回	F. 血管系 a. 動脈硬化症 1. メタボリックシンドロームと動脈硬化 b. 高血圧 c. 閉塞性動脈硬化症	
第21回	d. 動脈系疾患 1. 大動脈瘤 2. 大動脈解離 3. 動脈の閉塞性疾患(バージャー病, 動脈血栓症など) e. 静脈系疾患 1. 血栓性静脈炎 2. 静脈瘤 3. 上大静脈症候群	
第22回	G. 呼吸器系疾患の病態生理、所見、検査、主な治療 a. 感染性疾患(内科系診断・治療)	呼吸器系の構造・生理
第23回	b. 閉塞性疾患・拘束性肺疾患(内科系診断治療)	呼吸器系の構造・生理
第24回	c. 腫瘍・胸腔疾患(外科系診断治療)	呼吸器系の構造・生理
第25回	d. 肺循環障害・換気異常(内科系・一部外科系)	呼吸器系の構造・生理
第26回	H. アレルギー・免疫疾患(内科系診断治療)	呼吸器系の構造・生理
第27回	I. 血液造血系疾患の病態生理、所見、検査、主な治療 a. 白血球系疾患(内科系診断・治療)	血液・造血器系の構造・生理
第28回	b. 赤血球系疾患・出血性疾患(内科系診断治療)	血液・造血器系の構造・生理
第29回	c. アレルギー疾患・膠原病疾患(内科系診断治療)	血液・造血器系の構造・生理
第30回	d. リンパ網内径疾患・異常タンパク血症疾患(内科・外科系診断治療)	血液・造血器系の構造・生理

■履修上の注意

--

■評価方法

--

■教科書

- 4) 上塚芳郎他: 系統看護学講座成人看護学[3]循環器 医学書院
- 5) 浅野浩一郎他: 系統看護学講座成人看護学[2]呼吸器 医学書院
- 6) 竹村信彦他: 系統看護学講座成人看護学[11]アレルギー・膠原病感染症 医学書院
- 7) 飯野京子他: 系統看護学講座成人看護学[4]血液・造血器 医学書院

■参考書

講義の中で適宜提示する。

科目名	疾病・治療論各論Ⅱ-1			担当教員 (単位認定者)	栗原 卓也, 奥泉 宏康 高玉 篤	単位数	2
対象学年	2	授業方法	講義・(演習)・実習	必修・選択		必修	

■授業の到達目標・期待される学習効果

1. 疾病の病態生理、症状、検査と治療法を理解する。
2. 疾病を理解し、看護を考える基礎知識とする。

■授業の概要

1. 骨筋肉運動器疾患の病態生理、症状、検査と治療法の基礎知識を学び、病態の理解を深める。
2. 内分泌代謝疾患の病態生理、症状、検査と治療法の基礎知識を学び、病態の理解を深める。
3. 感覚器疾患（眼下）の病態生理、症状、検査と治療法の基礎知識を学び、病態の理解を深める。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	G. 骨筋肉運動器疾患（1回目）運動器の基本的理解，特有な検査と治療	成人[10]第3章，第4章
第2回	G. 骨筋肉運動器疾患（2回目）骨折総論・各論（大腿骨頸部骨折・上腕骨折）	成人[10]第5章
第3回	G. 骨筋肉運動器疾患（3回目）加齢の変化：骨粗鬆症・腰椎圧迫骨折	成人[10]第5章
第4回	G. 骨筋肉運動器疾患（4回目）変形性関節症（股関節・膝関節）	成人[10]第5章
第5回	G. 骨筋肉運動器疾患（5回目）脊椎・脊髄疾患（腰椎椎間板ヘルニア他）	成人[10]第5章
第6回	G. 骨筋肉運動器疾患（6回目）骨・関節の炎症性疾患/骨腫瘍	成人[10]第5章
第7回	G. 骨筋肉運動器疾患（7回目）筋肉・神経疾患（筋ジストロフィー他）	成人[10]第5章
第8回	H. 内分泌代謝疾患（1回目） 内分泌・代謝器官の機能及び異常の発現 内分泌・代謝を司る器官（臓器）・代謝回路の概観・ホルモンの作用・代謝・内分泌疾患の主な徴候	
第9回	H. 内分泌代謝疾患（2回目） 代謝疾患① 糖尿病（1型） 糖尿病（2型） 低血糖症	
第10回	H. 内分泌代謝疾患（3回目） 代謝疾患② 高脂血症・高コレステロール血症 肥満症 高尿酸血症・痛風 蛋白質代謝異常、 ビタミン欠乏症	
第11回	H. 内分泌代謝疾患（4回目） 視床下部・下垂体、甲状腺、副甲状腺疾患 ・下垂体性小人症、先端巨大症 ・高プロラクチン血症、クッシング病 ・下垂体前葉機能低下症 ・尿崩症 ・甲状腺機能亢進（バセドウ病）・甲状腺機能低下症・慢性甲状腺炎（橋本病）等	
第12回	H. 内分泌代謝疾患（5回目） 副腎、性腺疾患 原発性アルドステロン症 クッシング症候群 アジソン病 褐色細胞腫 男性・女性性腺機能低下症	
第13回	I. 感覚器（眼科）（1回目）眼疾患の基本的理解	成人[13]第2.3.4.章
第14回	I. 感覚器（眼科）（2回目）疾患の理解（白・緑内障，網膜等）	成人[13]第5章

■履修上の注意

--

■評価方法

--

■教科書

1. 織田弘美他著：系統看護学講座 専門分野Ⅱ運動器 成人看護学[10]（第12版）、医学書院、2010
2. 黒江ゆり子他：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 内分泌・代謝、医学書院
3. 大鹿哲郎他著：系統看護学講座 専門分野Ⅱ眼 成人看護学[13]（第12版）、医学書院、2010

■参考書

講義内で適宜紹介する。

科目名	疾病・治療論各論Ⅱ-2		担当教員 (単位認定者)	亀山 正樹 林 博, 他	単位数	2
対象学年	2	授業方法	講義・(演習)・実習	必修・選択	必修	

■授業の到達目標・期待される学習効果

1. 疾病の病態生理、症状、検査と治療法を理解する。
2. 疾病を理解し、看護を考える基礎知識とする。

■授業の概要

1. 感覚器疾患（耳鼻科・皮膚科）の病態生理、症状、検査と治療法の基礎知識を学び、病態の理解を深める。
2. 神経精神活動機能障害の病態生理、症状、検査と治療法の基礎知識を学び、病態の理解を深める。
3. 生殖器系疾患の病態生理、症状、検査と治療法の基礎知識を学び、病態の理解を深める。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第15回	I. 感覚器（耳鼻科）（1回目）耳鼻疾患の基本的理解	成人[14]第2.3.4章
第16回	I. 感覚器（耳鼻科）（2回目）疾患の理解（副鼻腔炎、中耳炎他）	成人[14]第5章
第17回	I. 感覚器（皮膚科）（1回目）皮膚疾患の基本的理解	成人[15]第2.3.4章
第18回	I. 感覚器（皮膚科）（2回目）疾患の理解（熱傷、湿疹、掻痒症他）	成人[15]第5章
第19回	J. 神経精神活動機能障害（1回目）精神疾患の特徴・症状・診断・検査・治療	
第20回	J. 神経精神活動機能障害（2回目）精神発達遅滞・人格障害（症状・治療）	
第21回	J. 神経精神活動機能障害（3回目）神経症・心身症（症状・治療）	
第22回	J. 神経精神活動機能障害（4回目）統合失調症・躁鬱病（症状・治療）	
第23回	J. 神経精神活動機能障害（5回目）児童期・老年期の精神疾患（発達段階）	
第24回	J. 神経精神活動機能障害（6回目）アルコール・薬物依存と中毒（生活・文化）	
第25回	K. 生殖器系疾患（1回目）女性生殖器の基本的理解（女性生殖器の構造・機能）	p20～31、p38～45
第26回	K. 生殖器系疾患（2回目）特有な診察・検査・治療・処置	p48～93
第27回	K. 生殖器系疾患（3回目） 性分化異常（半陰陽 性染色体異常 遺伝子変異） 外陰の疾患（発育・発達異常 外陰炎 外陰掻痒感 バルトリン腺炎 外陰癌） 膣の疾患（発生・発育の異常 膣炎 膣の腫瘍） 子宮の疾患（発生・発達の異常 位置異常 子宮癌 子宮筋腫 子宮内膜症 絨毛性疾患）	p96～124
第28回	K. 生殖器系疾患（4回目） 卵管の疾患（発生・発育の異常 炎症 腫瘍 子宮外妊娠 卵管通過障害・卵管癒着） 卵巣の疾患（良性腫瘍 悪性腫瘍） ・骨盤内炎症疾患（子宮内膜炎 骨盤腹膜炎）	p125～136
第29回	K. 生殖器系疾患（5回目） 機能的疾患（月経異常・月経随伴症状 更年期障害 不妊症 不育症） 感染症（性感染症 性器結核）	p135～136、p161～193
第30回	K. 生殖器系疾患（6回目） 乳腺の疾患理解（乳がん 乳腺良性腫瘍 乳腺症 発生・発育の異常 炎症）	p137～160

■履修上の注意

--

■評価方法

--

■教科書

- 1-1. 小松浩子他著：系統看護学講座 専門分野Ⅱ耳鼻咽喉 成人看護学[14]（第12版）、医学書院、2010
- 1-2. 岡山裕子他著：系統看護学講座 専門分野Ⅱ皮膚 成人看護学[12]（第12版）、医学書院、2010
- 2-1. 武井麻子他著：系統看護学講座専門分野Ⅱ 精神看護学[1] 精神看護の基礎、医学書院、2009
- 2-2. 武井麻子他著：系統看護学講座専門分野Ⅱ 精神看護学[2] 精神看護の展開、医学書院、2009
3. 池田正他著：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 女性生殖器疾患、医学書院、2010

■参考書

講義内で適宜紹介する。

科目名	疾病・治療論各論Ⅲ			担当教員 (単位認定者)	小和瀬 貴律 多田 真和	単位数	1
対象学年	2(前期)	授業方法	講義・(演習)・実習		必修・選択		必修

### ■授業の到達目標・期待される学習効果

1. 疾患を抱える子どもへの看護を考えるために、小児期にある子どもに特有な疾患の特徴および治療を理解する。
2. 高齢者への看護を考えるために、高齢者に特有な疾患と症候の特徴および治療を理解する。

### ■授業の概要

小児期にある子どもおよび高齢者に特有な疾患を取り上げ、各疾患の概念、病態生理、分類、疫学、発症、原因、誘因、症状、経過、検査、診断、治療法、予後等について教授する。これらの疾患の治療に伴う看護を考える基礎知識とする。

### ■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	科目オリエンテーション ■出生前疾患：18トリソミー、ダウン症候群、クラインフェルター症候群、ターナー症候群など ■新生児疾患：新生児仮死、呼吸窮迫症候群、高ビリルビン血症、乳児ビタミンK欠乏性出血症など	テキスト1)：第1章・第2章 B. おもな疾患の項
第2回	■代謝・内分泌疾患：新生児マススクリーニング対象疾患、1型糖尿病など ■免疫・アレルギー性疾患：アトピー性皮膚炎、食物アレルギー、若年性関節リウマチなど	テキスト1)：第3章・第4章・第5章 B. おもな疾患の項
第3回	■感染症：急性乳幼児下痢症、麻疹、風疹、突発性発疹症、水痘・帯状疱疹、手足口病、流行性耳下腺炎、急性灰白髄炎、日本脳炎、インフルエンザなど	テキスト1)：第6章 B. おもな疾患の項
第4回	■呼吸器疾患：気管支喘息、細気管支炎、マイコプラズマ肺炎、脳気胸、仮性クレープなど	テキスト1)：第7章 B. おもな疾患の項
第5回	■循環器疾患：先天性心疾患(心室中隔欠損症、心房中隔欠損症、卵円孔開存症、ファロー四徴症など)、後天性心疾患(川崎病、リウマチ性弁膜症など)	テキスト1)：第8章 B. おもな疾患の項
第6回	■消化器疾患：口唇・口蓋裂、肥厚性幽門狭窄症、腸閉塞、腸重積症、ヒルシュスプルング病、直腸肛門奇形・鎖肛、急性虫垂炎、鼠径ヘルニア、胆道閉鎖症など	テキスト1)：第9章 B. おもな疾患の項
第7回	■血液疾患：血友病、血管性紫斑病、突発性血小板減少性紫斑病など ■腫瘍性疾患：神経芽腫、ウィルムス腫瘍、急性リンパ性白血病、脳腫瘍など	テキスト1)：第10章・第11章 B. おもな疾患の項
第8回	■腎・泌尿器疾患：急性糸球体腎炎、ネフローゼ症候群、腎不全、尿路感染症など	テキスト1)：第12章 B. おもな疾患の項
第9回	■神経疾患：髄膜炎、てんかん、水頭症、熱性けいれん、憤怒けいれん、脳性まひ、進行性筋ジストロフィー、二分脊椎症など	テキスト1)：第13章 B. おもな疾患の項
第10回	■運動器・骨格器疾患：先天性股関節脱臼、先天性筋性斜頸、脊柱側弯症、骨折、合指症など	テキスト1)：第14章 B. おもな疾患の項
第11回	■皮膚疾患：色素性母斑、熱傷など ■眼疾患：結膜炎、全色盲、先天性白内障・緑内障、斜視など ■耳鼻咽喉疾患：外耳奇形、中耳炎、副鼻腔炎、アデノイド増殖症、口蓋扁桃肥大など	テキスト1)：第15章・第16章・第17章 B. おもな疾患の項
第12回	■加齢に伴う老年者の健康障害の特徴： (1)加齢に伴う身体機能低下 (2)生体防御機構、免疫機構の機能低下	テキスト2)：第1章 高齢者の生理的特徴
第13回	■老年者にみられる複合的症候：(1)安静/寝たきりによる身体複合的侵襲 (2)低栄養状態の病態と要因・経管栄養(PEG) (3)水・電解質異常 (4)脱水症の病態と要因 (5)摂食・嚥下障害の病態と要因	テキスト2)：第2章 老年症候群
第14回	■疾患の病態生理と加齢現象：(1)認知症 (2)高齢者の精神疾患 (3)パーキンソン症候群 (4)高齢者の肺炎 (5)高齢者の感染	テキスト2)：第4章 高齢者疾患の特徴
第15回	■治療：(1)薬物療法(加齢に伴う薬物動態の変化) (2)手術療法①麻酔・手術の影響 ②高齢者に起こりやすい術後合併症の病態 2)高齢者に対するリハビリテーション	テキスト2)：第5章 高齢者と薬 第6章 高齢者とリハビリテーション

### ■履修上の注意

教科書を必ず読んで講義にのぞむこと。また、自分の知識となるよう復習もおこなうこと

### ■評価方法

授業態度、出席状況、定期試験、課題レポートにより、総合的に評価する。

### ■教科書

- 1) 奈良間美保他著：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学 [2] 小児臨床看護各論，医学書院
- 2) 佐々木秀忠他著：系統看護学講座 専門11 老年看護 病態・疾患編，医学書院

### ■参考書

講義の中で適宜提示する。

科目名	臨床病理病態論			担当教員 (単位認定者)	高木 勝広	単位数	1
対象学年	2(前期)	授業方法	講義・演習・実習	必修・選択		必修	

#### ■授業の到達目標・期待される学習効果

病原微生物の基礎的な性質、感染と発症機構、化学療法、感染予防対策等について、医療従事者として必要な知識を身につける。特に看護師による院内感染の予防対策は重要である。院内感染予防の観点から合理的な対応と適切な対策を行えるよう、その基盤となる知識を習得する。

#### ■授業の概要

近年、微生物学分野における著しい発展の反面、SARSの流行や新型インフルエンザの出現、さらにはMRSAなど難治性の薬剤耐性菌による院内感染や日和見感染症の急増など、感染症の種類やその様相は著しく変貌している。本講義では、感染症の原因となる各種病原微生物の一般的性質及びこれらに対する宿主の免疫応答機構を学習する。各論では免疫低下に因る日和見感染症、耐性菌による院内感染症、人畜共通感染症、輸入感染症などについて学ぶ。

#### ■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	微生物と微生物学	教科書 第1章 4-12
第2回	細菌の性質	教科書 第2章 14-32
第3回	真菌・原虫・ウィルスの性質	教科書 第3章 42-69
第4回	微生物の分類・感染・滅菌と消毒	教科書 第6章 74-96 教科書 第8章 138-145 教科書 第9章 148-162
第5回	感染に対する生体防御	教科書 第7章 98-136
第6回	おもな病原微生物学① 細菌	教科書 第13章 214-284
第7回	おもな病原微生物学② 真菌・原虫・ウィルス	教科書 第14章 286-351
第8回	エイズウィルス、MRSAなどの感染コントロール	教科書 207、215-216 教科書 339-342

#### ■履修上の注意

講義計画に該当する内容をテキストから探し、事前に読んでおいてください。また誠意ある態度での受講を求めます。

#### ■評価方法

小テスト(20%)、学期末定期試験(80%)等で評価します。

#### ■教科書

系統看護学講座 専門基礎分野 微生物学 疾病のなりたちと回復の促進④ ISBN 978-4-260-00673-6

#### ■参考書

シンプル微生物学 東匡伸、小熊恵二、南江堂 ISBN978-4-524-23978-8



科目名	栄養の基礎と応用			担当教員 (単位認定者)	木村 順子	単位数	1
対象学年	2(前期)	授業方法	講義・(演習)・実習		必修・選択	必修	

■授業の到達目標・期待される学習効果

栄養学の基本的な知識を身につける・そして実践可能な分野は日常生活に生かすことを目標とする。そのためには、正しい理論と実践を学習させるための授業を行う。

■授業の概要

栄養学は生涯を通じて健康を保持・増進し、健康的なライフスタイルを送れるよう、食の科学を追求し、それを実践するための学問である。栄養学概論、栄養学各論、病院食、疾患別食事療法の実際を本演習では、以下のスケジュールに沿って進めていく。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	ガイダンス・人間栄養学と看護	
第2回	栄養素の種類とはたらき	
第3回	栄養状態の評価、判定	
第4回	エネルギー代謝	
第5回	栄養素の消化・吸収	
第6回	栄養素の体内代謝	
第7回	栄養ケア・マネジメント、ライフステージと栄養(乳幼児期～青年期)	
第8回	ライフステージと栄養(成人期～高齢期)	
第9回	臨床栄養(A.病院食、B.疾患別食事療法の実際①)	
第10回	臨床栄養(B.疾患別食事療法の実際②、③)	
第11回	臨床栄養(B.疾患別食事療法の実際③～⑧)	
第12回	臨床栄養(B.疾患別食事療法の実際⑨～⑪)、栄養補給法)	
第13回	健康づくりと食品・食事・食生活、日本人の食事摂取基準	
第14回	病院食(軟食)の実習	
第15回	課題自習	

■履修上の注意

- ・他の教科との関連を理解する。
- ・教科書は、授業内容に合わせ、あらかじめ読んでおき、理解を深めておく。

■評価方法

出席状況と定期試験及び課題提出をもとに総合評価する。

■教科書

著者代表 中村丁次 系統看護学講座専門基礎分野 人体の構造と機能[3] 栄養学 医学書院 (税込1,995円)

■参考書

著者代表 中村丁次 系統栄養学講座別巻 栄養食事療法 医学書院 (税込1,890円)

科目名	保健医療福祉と行政		担当教員 (単位認定者)	笹澤 武	単位数	1
対象学年	3(後期)	授業方法	(講義)・演習・実習	必修・選択	必修	

■授業の到達目標・期待される学習効果

保健医療福祉と行政における学習成果が、看護師国家試験取得や看護上の知識・実践に役立つことを目的としている。

■授業の概要

保健医療福祉活動は、人々が健康で、豊かに暮らすために重要な役割を担っている。そのために授業では、基本的理解と、実践能力を身につけるため、「授業計画」に沿って、学習を進める事を目的としている。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	保健医療福祉と行政とは	仕組みや制度
第2回	わが国の保健医療福祉制度の変遷	保健医療福祉行政の方向性
第3回	保健医療福祉行政の役割	国や地方公共団体の役割
第4回	社会保障制度	介護保険や社会福祉の制度
第5回	地域保健行政と保健師・看護師活動	保健所の役割と機能など
第6回	危機管理とは	健康危機等への対応
第7回	保健医療福祉の計画と評価	生活の質の向上とは
第8回	保健計画の策定プロセス(まとめ)	復習

■履修上の注意

資料配布、要点は板書するのでノートをとること。授業内容がシラバスと異なることもあるが、自己学習にも熱心に取組むことが必要条件である。

■評価方法

授業態度10%、出席状況10%、ミニテスト10%、テスト70%により総合評価する。

■教科書

授業に応じて資料を配布する。

■参考書

必要に応じて適宜指示するが、参考書としては、藤内修二 山崎京子編著『保健医療福祉行政論』医学書院 2,940円

科目名	年金・医療・介護保険制度		担当教員 (単位認定者)	土屋 昭雄	単位数	1
対象学年	2(必修)	授業方法	(講義)・演習・実習	必修・選択	必修	

■授業の到達目標・期待される学習効果

年金、医療、介護保険といったいわゆる社会保険の概要を把握し、その問題点や課題を理解・認識できる知識の習得を目指す。

■授業の概要

法制度の概要について講義していく。また、介護保険サービスにおける看護師の役割などについても言及していく。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	オリエンテーション	テキストはしがき一読・目次確認
第2回	介護保険制度の概要	テキスト該当ページ熟読
第3回	介護保険制度の概要	配付資料の確認
第4回	居宅サービス	テキスト該当ページ熟読
第5回	施設サービス	テキスト該当ページ熟読
第6回	年金制度の概要	テキスト該当ページ熟読
第7回	年金制度の概要	配付資料の確認
第8回	医療保険制度の概要	テキスト該当ページ熟読

■履修上の注意

遅刻、私語厳禁。他の受講者の迷惑とならないよう、真摯な態度で授業に臨むこと。

■評価方法

出席(20%)、試験(80%)、そして受講態度を参考に総合して評価する。

■教科書

一圓光彌編著 『社会保障論概説(第2版)』 誠信書房

■参考書



科目名	看護診断と看護治療			担当教員 (単位認定者)	中溝 道子 溝口 孝美	単位数	1
対象学年	2(前期)	授業方法	講義・(演習)・実習		必修・選択		必修

#### ■授業の到達目標・期待される学習効果

1. 看護診断の概要及び意義を理解する。
2. 看護診断をする為の基礎知識を学び、看護過程展開能力を高める。

#### ■授業の概要

1. NUNDA-I看護診断を中心に教授し、看護過程展開の基礎とする
2. 既習のヘンダーソン論における看護過程と看護診断の共通性を明らかにする。
3. 講義・グループ学習を通し、学生自身が既習知識を総動員し自ら考えていく学習形態とする。

#### ■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	科目に対するオリエンテーション 看護診断とは 看護過程における看護診断の位置づけ	看護論Ⅲにおける看護診断の復習
第2回	看護診断とヘンダーソン看護論における看護過程の共通性と相違性 看護診断を用いる意義	方法論の復習
第3回	看護診断を構成する要素 看護診断のタイプ	NANDA-I看護診断の定義、分類等について予習
第4回	看護診断過程の実際(1) NANDA-I看護診断に実際	NANDA-I看護診断の定義、分類等について予習
第5回	看護診断過程の実際(2) NANDA-I看護診断に実際	NANDA-I看護診断の定義、分類等について予習
第6回	看護診断過程の実際(3) NANDA-I看護診断に実際	NANDA-I看護診断の定義、分類等について予習
第7回	看護診断過程の実際 カルペニートにおける看護診断の実際	NANDA-I看護診断の定義、分類等について予習
第8回	看護診断過程の実際 ウエルネスにおける看護診断の実際	カルペニート看護診断について予習
第9回	中範囲理論について —情動的中範囲理論—	ウエルネス看護診断について予習
第10回	中範囲理論について —社会的中範囲理論等—	中範囲理論について予習
第11回	看護介入分類(NIC)と看護成果分類(NOC)	看護介入と看護成果について予習
第12回	看護診断の臨床実践への活かし方 —NANDA-NIC-NOCを事例で考える	NANDA-I看護診断における看護
第13回	看護診断の臨床実践への活かし方 —NANDA-NIC-NOCを事例で考える	提示事例について予習
第14回	看護診断の臨床実践への活かし方 —NANDA-NIC-NOCを事例で考える	提示事例について予習
第15回	まとめ・小テスト	

#### ■履修上の注意

1. 主体的な学習をするために必ず予習・復習をして臨むこと。
2. グループ課題においてはメンバーで力を合わせて主体的に取り組むこと。

#### ■評価方法

筆記試験(70%)と授業及びグループ課題の参加度(30%)を総合して評価する

#### ■教科書

黒田裕子;看護診断のためのよくわかる中範囲理論,学研,2009.  
NANDA International:NANDA-I看護診断定義と分類2009-20111医学書院,2010  
黒田裕子:NANDA-NIC-NOCの理解第4版,医学書院,2010

#### ■参考書

授業内で適時紹介する。

科目名	施設・病棟統合実習		担当教員 (単位認定者)	佐藤 正美 中溝 道子 他	単位数	2
対象学年	3	授業方法	講義・演習・ <b>実習</b>	必修・選択	必修	

### ■実習の目的または到達目標

#### 1. 実習目的

各看護学及び在宅看護論の実習の学びを基に、複数患者の看護援助の優先順位を判断し、チームの一員として看護を実践し、看護専門職者としての自覚と責任感を養う。また、看護管理の見学を通し、調整・マネジメントのあり方を学ぶ。

#### 2. 実習目標

- 1) 数名の患者の看護援助の優先度を判断し、看護が実践できる。また、時間管理の必要性を理解する。
- 2) 入院患者の治療・処置・診察の援助技術を対象の安全性や効率性を考慮しながら見学あるいは実施ができる。
- 3) 患者がよりよく療養生活を送ることができるよう看護チームの仕事の分業、協働・連携をどの様にしていけばよいかを理解できる。
- 4) 病棟における看護管理及び他部門との連絡調整の実際を学ぶ。
- 5) 統合実習を通して、看護の専門性について考え看護観を深める。

### ■実習履修要件

1. 看護基礎実習Ⅰ・看護基礎実習Ⅱの単位を修得していること
2. 精神看護学・小児看護学・成人看護学・老年看護学実習・在宅看護学実習が終了していること
3. 母性看護学実習については単位認定の資格要件を満たしていること。

### ■実習時期及び実習日数・時間

日時：平成24年12月3日（月）～12月14日（金）  
 日数：10日間  
 時間：90時間（2単位）

### ■実習上の注意

1. 具体的な内容については、基礎看護学実習要項、看護学臨地実習 共通要綱を参照

### ■評価方法

出欠席と単位については看護学実習要綱を参照する  
 施設・病棟統合実習の実習評価表に基づき評価する。詳細については基礎看護学実習要項参照

科目名	地域看護学概論Ⅰ		担当教員 (単位認定者)	佐藤 京子、他	単位数	1
対象学年	3	授業方法	講義・演習・実習	必修・選択	必修	

■授業の到達目標・期待される学習効果

- ・地域看護の概念と歴史的・社会的背景を理解し、地域看護活動の在り方を考えることができる。
- ・人々の健康問題を環境・健康レベル・ライフステージ・個と集団等の側面から学び、看護の役割を理解できる。
- ・地域看護活動の場と諸分野を学び、健康レベルに対応した看護機能、及び施設看護との相違を理解できる。

■授業の概要

- ・地域看護は人々の健康問題を生活の場から捉え、健康や生活の質を向上のための支援を行う看護である。
- ・授業では、地域看護の概念、地域看護活動が発展してきた先人達の航跡、現在の活動諸分野、人々の生活と地域看護の役割、関係行政施策そして、国際的保健戦略等について学習する。
- ・授業は講義形式を主とするが、テーマによってはDVD等の視聴覚教材も用いる。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	・科目オリエンテーション ・地域看護の概念 1) 地域看護の目的 2) 地域看護の定義	教科書：第1章 第1節
第2回	・地域看護活動の場と分野 1) 公衆衛生看護 2) 在宅看護 3) 学校看護 4) 産業看護	第2章 第1～4節
第3回	・地域看護の歴史と社会的背景	第1章 第2節
第4回	・諸外国の地域看護活動	第1章 第3節
第5回	・人々の生活と地域看護の役割〔1〕 1) 人々の健康に影響するもの 2) ライフステージと健康問題	「人間と健康」「公衆衛生学」の復習
第6回	・人々の生活と地域看護の役割〔2〕 3) 健康レベルと看護活動 4) 個人・家族・集団の健康問題と看護職の役割	
第7回	・WHOの保健戦略 1) プライマリーヘルスケア 2) ヘルスプロモーション	第1章 第4節
第8回	・地域保健福祉行政と地域健康施策 ・保健医療福祉の連携とケアコーディネーション	第1章 第6節

■履修上の注意

- ・既修の関連科目（人間と健康、公衆衛生学等）の復習をして、臨んでください。
- ・自身や家族・身近な人々の健康や保健行動に関心をもって受講してください。
- ・教科書・プリント等は毎回持参してください。
- ・変更がある場合は前の週の授業が掲示で知らるので、常に注意を払ってください。

■評価方法

筆記試験、課題レポート、受講態度により評価する 配点は科目オリエンテーションで示す。

■教科書

公衆衛生看護学 津村智恵子編著 中央法規出版  
国民衛生の動向

■参考書

随時、提示する

科目名	地域看護学概論Ⅱ(在宅看護論)		担当教員 (単位認定者)	佐藤 京子、他	単位数	1
対象学年	2	授業方法	講義・演習・実習	必修・選択	必修	

■授業の到達目標・期待される学習効果

- ・在宅看護の基本理念・特性、在宅看護の現状と歴史的背景が理解できる。
- ・在宅看護が多く関係職種との連携、チームケアで成立していることを学び、患者・家族への信頼感等、看護専門職の果たす役割の大きいことを理解することができる。
- ・将来の訪問看護師としての志向性を高めるとともに、看護の継続性を理解し施設と在宅の連携を実質的に担える看護師の育成に資することができる。

■授業の概要

- ・在宅看護の成立過程を歴史的経緯から学び、在宅看護の目的、特性、看護職の役割を理解する。
- ・地域ケアに関わる法、制度を学び、在宅看護を支える地域ケアシステムにおける関係機関・職種との連携、ケアコーディネーション・ケアマネジメントの機能を通して、看護師の役割を学ぶ。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	・科目オリエンテーション ・在宅看護とは	医療・介護等の法制度、連携に関しては、既習の「保健医療福祉論」、「看護と福祉の連携」等を復習しておくこと。
第2回	・在宅看護の歴史 ・現代社会と在宅看護	
第3回	・在宅看護の基本理念 在宅看護の目的、訪問看護師の役割・機能 ・在宅看護の特性 ・看護の継続性	
第4回	・在宅看護の対象〔1〕 1) 地域で生活する人々 2) 在宅療養者	
第5回	・在宅看護の対象〔2〕 在宅療養者の家族と介護者	
第6回	・在宅看護の場 ・在宅看護に関わる法律・制度	
第7回	・地域ケアシステムと関係機関のとの連携	
第8回	・在宅看護管理 : 訪問看護ステーション運営、安全管理 ・在宅療養者の権利保障、倫理的課題	

■履修上の注意

- ・病院・施設看護に対して、看護が行われる場は地域・家庭であり、その対象が患者本人のみならず、介護者、家族を含むことを常に意識した学習をしてほしい。
- ・現在の社会情勢のなかで、頻繁に在宅医療・看護・介護問題がマスコミ等で報じられているので、新聞・テレビ等からの情報に常に興味を持って学習に臨んでもらいたい。

■評価方法

授業態度、出席状況、課題レポート、定期試験により総合的に評価する。配点は科目オリエンテーションで示す。

■教科書

杉本正子、真船拓子編：在宅看護論、ヌーヴェルヒロカワ、最新版

■参考書

随時、紹介する。

科目名	在宅看護援助論		担当教員 (単位認定者)	丸岡 紀子、他	単位数	1
対象学年	2	授業方法	講義・演習・実習	必修・選択	必修	

#### ■授業の到達目標・期待される学習効果

・在宅看護の実際を訪問看護師の日常活動に沿って学ぶ。このことにより日常業務がよりイメージしやすくなり、より具体的な職場志向が可能になる。また、各領域疾患の在宅療養者の実際を学ぶことにより、訪問看護師になる準備学習(臨床看護師として)の計画ができる。

#### ■授業の概要

・活動の場や訪問技術、コミュニケーションの取り方  
・アセスメントの方法、社会資源の活用方法  
・各領域別の在宅看護の実践事例

#### ■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	・科目オリエンテーション ・在宅看護活動の場 1) 訪問看護ステーション 2) 医療機関 3) 在宅介護支援センター 4) 通所施設、入所施設等	教科書：第2章I-2
第2回	・在宅看護の方法 1) 訪問看護＝家庭訪問 2) 看護実践 3) 関係機関連携等	
第3回	・在宅での看護課程の展開 (アセスメント・看護計画・(実践)・看護評価、記録)	基礎看護学等の関連科目の復習をする。
第4回	・在宅でのコミュニケーション・面接技術	
第5回	・社会資源の活用 介護保険制度、障害者自立支援法、保健所・市町村保健福祉機関等	
第6回	・対象別在宅看護〔1〕 1) 高齢者 2) 認知症 3) 終末期療養者	・「疾病論」「各領域看護論」について復習をする。 ・教科書：第3章IIの各該当項目の予習
第7回	・対象別在宅看護〔2〕 4) 難病患者 5) 身体障害者 6) 小児疾患	
第8回	・対象別在宅看護〔3〕 7) 感染症 8) 精神障害者 9) その他	

#### ■履修上の注意

・本科目の基礎である地域看護学概論IIを復習しつつ、授業に臨むよう心がけること。  
・病院・施設看護に対して、看護が行われる場は地域・家庭であり、その対象が患者本人のみならず、介護者、家族を含むことを常に意識した学習をしてほしい。  
・現在の社会情勢のなかで、頻繁に在宅医療・看護・介護問題がマスコミ等で報じられているので、新聞・テレビ等からの情報に常に興味を持って学習に臨んでもらいたい。

#### ■評価方法

授業態度、出席状況、課題レポート、定期試験により総合的に評価する。

#### ■教科書

杉本正子、真船拓子編：在宅看護論 実践をこぼに 第5版、ヌーヴェルヒロカワ、2008

#### ■参考書

随時、紹介する。

科目名	在宅看護援助技術			担当教員 (単位認定者)	丸岡 紀子、他	単位数	1
対象学年	2	授業方法	講義・(演習)・実習	必修・選択		必修	

### ■授業の到達目標・期待される学習効果

在宅で療養する患者に対して行う看護の基礎的な技術を学ぶ。また、在宅生活を可能にする医療機器などを用いた治療法における看護の役割を学習し、安心・安楽に配慮した日常生活の援助や看護技術ができることを目的とする。さらに必要に応じ家族に対するこれらの技術の相談・指導ができることを目指す。

### ■授業の概要

在宅療養者に必要な看護技術について、講義及び実技をセットで学習する。

### ■授業計画

回数	授業内容			予習・復習
第1回	科目オリエンテーション 日常生活の援助 [1] 移動と活動、基本の動作介助、住環境の整備			<ul style="list-style-type: none"> <li>・テキストを読んでくる。</li> <li>・基礎、成人、老年、小児看護等の既習の授業・演習を復習しておく。</li> </ul>
第2回	日常生活の援助 [2] 清潔・睡眠			
第3回	日常生活の援助 [3] 排泄、ストーマケア			
第4回	日常生活の援助 [4] 食事と栄養管理、服薬管理			
第5回	在宅での医療処置と看護 [1] 経管栄養法、在宅中心静脈栄養法			
第6回	在宅での医療処置と看護 [2] 在宅人工呼吸療法、気管切開・吸引、褥瘡			
第7回	在宅看護計画の作成（事例紹介）			事例をもとに情報収集・アセスメントを行い演習Aの準備をする。
第8回	演習オリエンテーション、演習C「基本の動作」DVD視聴・グループ討議			DVD「基本の動作」資料をもとに演習Cの準備をする。
第9回	【1グループ】 演習A 在宅看護計画の作成	【2グループ】 演習B 在宅酸素療法、在宅人工呼吸療法、吸入	【3グループ】 演習C ・基本の動作（ADL） ・訪問時のマナー	演習A～Cのそれぞれの課題を行い、期限内に提出する。
第10回	演習B 在宅酸素療法、在宅人工呼吸療法、吸入	演習C ・基本の動作（ADL） ・訪問時のマナー	演習A 在宅看護計画の作成	
第11回	演習C ・基本の動作（ADL） ・訪問時のマナー	演習A 在宅看護計画の作成	演習B 在宅酸素療法、在宅人工呼吸療法、排痰・吸引、吸入	
第12回				
第13回				
第14回				
第15回	演習発表			各グループで発表準備をする。

### ■履修上の注意

- ・それぞれの授業のテーマについて、既習の人体構造機能学、関連疾病論をよく学習しておくこと。
- ・基礎看護、成人、老年、小児看護等の技術演習を在宅へ適応できるよう、既習の演習を復習するなどして知識を活用すること。
- ・実技演習では各種物品を用いるので、準備、後片付け等学生の役割を果たすこと。
- ・器具類は安全、且つ丁寧に扱うこと。

### ■評価方法

実技試験、筆記試験、課題レポートで行う。また学習態度も評価対象にする。配点は科目オリエンテーションで示す。

### ■教科書

岡崎美智子、正野逸子編集：根拠がわかる在宅看護技術、メジカルフレンド、2010

### ■参考書

押田真喜子：写真でわかる訪問看護 改訂2版、インターメディカ、2011



科目名	地域看護活動総論		担当教員 (単位認定者)	佐藤 京子 他	単位数	1
対象学年	3	授業方法	(講義)・演習・実習		必修・選択	必修

■授業の到達目標・期待される学習効果

- ・地域看護活動における個と集団の両側面からのアプローチの意義が理解できる。
- ・地域看護診断の方法を理解し、地区踏査のプロセスを実施できる。
- ・個々人の生活習慣と健康の関連性を体験を通して学び、普遍化することができる。

■授業の概要

地域看護活動の概要、地域看護診断の意義を理解し、その一方法である地区踏査を実施し、地域の健康課題を考える。また、個の健康と生活習慣の観察と評価を通して、健康課題の接近方法の理解を深める。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	科目オリエンテーション 地域看護活動の概要：対象とプロセス	教科書：1章 5節 2項
第2回	地域看護診断の方法 1) 地区踏査 2) 統計分析 3) 住民・関係者からの意見聴取	1章 5節 2項
第3回	地区踏査の実施	
第4回	地区踏査のまとめ	
第5回	地区踏査の結果発表	
第6回	地域の健康特性と地域保健活動	
第7回	生活習慣と健康 健康生活習慣の把握(1)	
第8回	健康生活習慣の把握(2)	

■履修上の注意

- ・地域看護学概論Iの復習をして、臨んでください。
- ・教科書・プリント等は毎回持参してください。
- ・変更がある場合は前の週の授業が掲示で知らるので、常に注意を払って下さい。

■評価方法

筆記試験40%、課題レポート50%、受講態度10%により評価する

■教科書

公衆衛生看護学 津村智恵子編著 中央法規出版, 国民衛生の動向(2010)

■参考書

随時提示する

科目名	養護概説			担当教員 (単位認定者)	鹿間 久美子	単位数	2
対象学年	3	授業方法	講義・演習・実習	必修・選択		選択	

### ■授業の到達目標・期待される学習効果

- ①養護教諭の職務の変遷と歴史的経緯および、学校教育における養護教諭の役割の説明ができる。
- ②学校における保健管理・保健教育の内容と養護教諭の役割の説明ができる。
- ③保健室の役割と保健室経営計画が理解できる。
- ④養護教諭の連携方法について説明できる。
- ⑤子どもの現代的課題について関心を持ち情報の収集ができる。
- ⑥養護教諭の専門性について示すことができる。

### ■授業の概要

学校教育の場で、養護教諭の職務が円滑に進められるように、具体的で実践的な内容を基に次のような講義を行う。養護教諭の職務の変遷と歴史的経緯および、学校教育における養護教諭の役割。学校における保健管理・保健教育の内容と養護教諭の役割。保健室の役割と保健室経営計画。養護教諭の関連職種・関連機関との連携方法。子どもの現代的課題について情報の収集。以上の学習を踏まえて、養護教諭の専門性について先行研究を確認しながら検討を行う。

### ■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	科目オリエンテーション・養護教諭の概念と職務の変遷	養護教諭の自己概念の確認
第2回	学校教育における養護教諭の役割1 養護教諭を取り巻く学問的位置付け	養護教諭の専門性とは何かをまとめる
第3回	学校教育における養護教諭の役割2 WHO健康の定義に即した検討	養護教諭の役割を分析する
第4回	保健管理1 救急処置と健康観察	体験的な事例をまとめる
第5回	保健管理2 健康診断と疾病管理	健康診断における感想と課題
第6回	保健管理3 学校環境衛生	学校環境衛生の必要性検討
第7回	保健教育1 教科における保健教育	記憶に残る保健授業の記載
第8回	保健教育2 特別活動などにおける保健指導	記憶に残る保健指導の記載
第9回	保健室の機能と役割	保健室平面図の作成
第10回	保健室経営における具体的な計画と実践	保健室経営計画作成
第11回	学校保健に関わる人的資源と組織活動	学校における問題行動の想定
第12回	養護教諭の連携とコーディネート	チーム援助シートの作成
第13回	子どもの現代的な課題と対策1	現代的な課題の選定
第14回	子どもの現代的な課題と対策2	現代的な課題への文献検索
第15回	養護教諭の専門性と研修の姿勢	養護教諭の自己概念の確認

### ■履修上の注意

- 予習段階での疑問点などは文献を検索し、さらに疑問点が残る場合は積極的に質問を行う姿勢で授業に臨むこと。また、教科書や当日の記録などを基に十分な復習を行う。
- 授業中、他の学生の学習権を侵害する行為（私語・複数回の遅刻・不適切な授業態度など）には注意を促し、改善が見られない場合は、当該学生と面談して相応な対応を行う。

### ■評価方法

筆記試験60% 予習復習・課題レポート30% 出欠状況10%

### ■教科書

采女智津江：新養護概説第4版、少年写真新聞社、平成21年。  
鹿間久美子：性の健康教育と養護教諭の役割—L.A. カーケンダールの性教育論を基にした理論と実践の研究—、考古堂書店、2010。

### ■参考書

入澤充：学校事故知っておきたい養護教諭の対応と法的根拠、時潮社、2009  
学校教育や子どもの現代的課題等に関するマスメディアからの最新情報



科目名	学校保健活動論Ⅰ		担当教員 (単位認定者)	鹿間 久美子	単位数	1
対象学年	3	授業方法	(講義)・演習・実習		必修・選択	必修

#### ■授業の到達目標・期待される学習効果

学校保健の歴史に基づき、制度や組織について理解する。学校保健について概観し、具体的な学校保健活動について学びを進める中で、学校保健の意義を明確に示すことができるようになる。

#### ■授業の概要

学校保健の歴史・制度・組織について概観し、学校保健活動における中核としての保健管理と保健指導について論じる。また、学校安全と食育を加えながら、具体的な学校保健活動を通して、関連機関や人的資源との連携について教授する。また、学校保健における今日的な課題を演習し、課題の解決に向けた取り組みについても理解を深める。

#### ■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	科目オリエンテーション・学校保健とはなにか、学校保健の歴史と制度	教科書①第1部第1編の確認
第2回	学校保健計画の概要、学校における保健管理	教科書①第1部第2編の確認
第3回	学校における保健教育、保健指導と保健学習	教科書①第1部第3編 教科書②第4章の確認
第4回	学校保健に関する組織活動	教科書①第1部第4編の確認
第5回	学校保健の評価	教科書①第1部第5編の確認
第6回	学校安全について	教科書①第2部第1編～第6編の確認
第7回	食育及び学校給食に関する事項	教科書①第3部第1編～第4編の確認
第8回	保健室の主な機能と養護教諭の役割	教科書②第5・6章の確認 まとめ

#### ■履修上の注意

- 1・2年次で学んだ地域看護学の科目内容を基に授業を行う。予習段階での疑問点などは関連する科目の教科書や文献を検索し、さらに疑問点が残る場合は積極的に質問を行う姿勢で授業に臨むこと。また、教科書や当日の記録などを基に十分な復習を行う。
- 授業中、他の学生の学習権を侵害する行為（私語・複数回の遅刻・不適切な授業態度など）には注意を促し、改善が見られない場合は、当該学生と面談して相応な対応を行う。

#### ■評価方法

筆記試験70%・課題レポート20%・出席状況10%

#### ■教科書

- ①学校保健・安全実務研究会：新訂版 学校保健実務必携《第2次改訂版》、第1法規、平成22年。
- ②鹿間久美子：性の健康教育と養護教諭の役割—L.A. カーケンダールの性教育論を基にした理論と実践の研究—、考古堂書店、2010。

#### ■参考書

徳山美智子編：改訂 学校保健 ヘルスプロモーションの視点と教職員の役割の明確化、東山書房、2009。  
秋葉昌樹：教育の臨床エスノメソドロジー研究保健室の構造・機能・意味、東洋館出版社、2004。

科目名	学校保健活動論Ⅱ		担当教員 (単位認定者)	鹿間 久美子	単位数	1
対象学年	3	授業方法	講義・演習・実習		必修・選択	選択

■授業の到達目標・期待される学習効果

学校保健安全計画に沿って、養護教諭が行う具体的な活動の場面が理解できる。  
健康観察・健康診断・感染予防や危機管理・学校環境衛生などの実技を身に付けることができる。

■授業の概要

学校保健Ⅰで学んだ概論に基づいて、学校保健安全計画に沿って、養護教諭が行う具体的な活動の場面が理解できるように、項目ごとに具体例をあげながら教授する。また、具体的な項目ごとの、健康観察・健康診断・感染予防や危機管理・学校環境衛生などの実技が身に付くように演習を行う。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	科目オリエンテーション・学校教育と学校保健の概要（講義）	教科書第Ⅰ章の確認
第2回	学校保健安全計画の立案（講義・演習）	教科書第Ⅱ章の確認
第3回	子どもの発育発達とヘルスプロモーション（講義）	教科書第Ⅲ・Ⅳ章の確認
第4回	健康観察の趣旨と実際（講義・演習）	教科書第Ⅴ章1の確認
第5回	健康診断の目的と実際（講義・演習）	教科書第Ⅴ章2の確認
第6回	感染予防・学校の危機管理（講義・演習）	教科書第Ⅴ章6の確認
第7回	学校環境衛生1（講義・演習）	教科書第Ⅴ章8の確認
第8回	学校環境衛生2（演習）	教科書第Ⅴ章8の確認

■履修上の注意

- 学校保健Ⅰで学んだ科目内容を基に授業を行うので、予習段階での疑問点などは学校保健Ⅰの教科書や文献を検索し、さらに疑問点が残る場合は積極的に質問を行う姿勢で授業に臨むこと。また、教科書や当日の記録などを基に十分な復習を行う。
- 授業中、他の学生の学習権を侵害する行為（私語・複数回の遅刻・不適切な授業態度など）には注意を促し、改善が見られない場合は、当該学生と面談して相応な対処を行う。

■評価方法

筆記試験・実技70%・課題レポート20%・出席状況10%

■教科書

徳山美智子編：改訂 学校保健 ヘルスプロモーションの視点と教職員の役割の明確化、東山書房、2009。

■参考書

- 三木とみ子：保健室経営マニュアルその基本と実際、ぎょうせい、平成21年
- 松本敬子：つながる・広がる学校保健～養護教諭の活動日記～ Vol.1・2、東山書房、2009。

科目名	在宅看護論実習		担当教員 (単位認定者)	佐藤 京子 他	単位数	2
対象学年	2	授業方法	講義・演習・ <b>実習</b>	必修・選択	必修	

### ■実習の目的または到達目標

#### 実習目的

- 1) 地域で生活している人々のうち、特にケアニーズの高い人々の生活の実状とそこで展開されている看護の実際を知り、地域での個別援助について学ぶ。
- 2) 地域ケアサービスシステムの一環としての訪問看護に関わる看護職の機能と役割について考える。

#### 到達目標

- 1) 在宅療養者と家族の医療・看護・介護上のニーズを把握し、看護計画を立てることができる。
- 2) 個別の在宅療養者の生活実態に即して、基礎的看護技術を応用し、必要な看護を実践し、評価することができる。
- 3) 施設看護（病院等）と対比し、在宅看護（介護）が備えるべき条件を考えることができる。
- 4) 在宅療養者を支援するケアサービス、関係する機関、職種について理解し、連携やケアマネジメントのあり方を考えることができる。
- 5) 個別事例の連携・ケアマネジメントをとおして、地域ケアサービスのシステム化（地域ケアコーディネーション）の有効性について理解できる。

### ■実習履修要件

1) 次の科目を修得済みであること：

- ①看護基礎実習Ⅰ・Ⅱ、②地域看護学概論Ⅱ、③在宅看護援助論、④成人看護学概論、⑤老年看護学概論

2) 次の科目の単位認定の受験資格要件を満たしていること：

- ①在宅看護援助技術、②成人看護援助論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ、老年看護援助論Ⅰ・Ⅱ

### ■実習時期及び実習日数・時間

実習時期：平成25年1月15日（火）～3月8日（金）

実習日数・実習時間：10日間（90時間）

実習施設：群馬県内の訪問看護ステーション

※実習方法の詳細は「臨地実習要項 在宅看護論実習」に提示する。

### ■実習上の注意

在宅看護論実習要項に沿って実習する。

- 1) 在宅看護論実習では生活の場や保健福祉行政機関等、様々な住民がいる場につくため、施設の内外を問わず言動には十分注意し、不用意に対象者の話をしない等、社会人として責任ある態度で臨むこと。
- 2) 訪問看護では対象者・家族がホスト、看護師がゲストという立場である。常に対象者・家族の了解と協力を得るよう務め、言葉づかいや身だしなみに注意を払うこと。
- 3) 訪問看護ステーションから提供された情報や実習記録等、個人のプライバシーに関わる記録物については取り扱いに十分注意し、放置・紛失しないこと。
- 4) 服装・身だしなみは他家を訪問するマナーに見合ったもの、看護行為の提供に支障のないものに心掛けること。

### ■評価方法

1) 評価項目：以下の項目を基に総合的に評価する。

- ①出席状況 ②実習内容、実習目的・目標に対する達成状況 ③実習態度 ④実習記録・レポート

2) 評価手順と方法：

- ①自己評価：実習終了時に学生が自己の評価を行う。 ②提出物：実習終了時に評価票・記録・レポートを提出する。  
③上記評価等により、A、B、C、Dの4段階で総合的に評価する。

科目名	精神看護学概論		担当教員 (単位認定者)	福山 なおみ	単位数	1
対象学年	2(前期)	授業方法	講義・演習・実習	必修・選択	必修	

### ■授業の到達目標・期待される学習効果

精神看護の目的や対象の理解、看護の役割機能ならびに方法について学び、心の健康に必要な看護に活かすことができる。

### ■授業の概要

精神看護の意義および役割機能を社会的変遷から概観し、こころの発達と社会生活における精神的健康関連因子から対象理解を深め、精神的健康の保持増進から精神活動を障害された対象への援助に必要な理論と方法論を学ぶ。

### ■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	精神看護学序論 ・精神看護の定義 ・精神科医療・精神看護の歴史の変遷ならびに社会的偏見や差別に対する看護者の倫理 ・精神看護の役割機能	・精神看護を予習する。 ・精神科医療の歴史の変遷について、欧米・日本との比較、法と関連事件をレポートする。
第2回	対象論 ・精神(こころ)の健康 ・精神力動的な考え方 ・環境と精神的健康	・精神の健康を予習する。 ・自分の心の状態について、イド・エゴ・スーパーエゴの視点でその関連をレポートする。
第3回	・ライフサイクルと危機 ・生活の場とメンタルヘルス(家庭・学校・職場など) ・看護師のメンタルヘルス(新人看護師のリアリティショック、中間看護師および看護管理者のワーカークホリック、燃え尽きなど)	・青年期の発達課題をまとめる。(自己を活用のこと) ・さまざまな生活の場とメンタルヘルスについてまとめる。
第4回	方法論 ・精神看護学領域で用いられる看護理論・看護モデルの概説 ペブロー、トラベルビー、オレム・アンダーウッド、ロイ	・左記看護理論を予習する。 ・オレム・アンダーウッドのツールで自己の日常生活アセスメントとケアの必要性をまとめる。
第5回	・対人関係の発達 ・援助的看護者-患者関係の形成 * VTRで対人関係の形成過程を紹介	・ペブローの対人関係の過程を復習しておく。 ・VTRの事例を通して学んだ対人関係の形成過程をまとめる。
第6回	・精神障害者リハビリテーション看護(ストレス脆弱性・火山論の例え・リハビリテーションを支える看護師の役割) *精神障害者リハビリテーション実践現場のVTRを紹介	・参考書④(精神科看護とリハビリテーション)を予習する。 ・精神障がい者リハビリテーション看護の課題をまとめる。
第7回	・自殺予防と看護(1) 自殺の実態、プリベンション・インターベンション・ポストベンション	・自殺統計(警察庁)をインターネットなどから読んでおく。 ・自殺予防における看護の役割についてまとめる。
第8回	・自殺予防と看護(2) 医療機関および地域における精神保健看護と連携、市民活動の実際 ・精神看護に求められる今後の展望	・自殺問題に関連する情報を予習。 ・精神看護に求められる今後の展望を具体例を挙げてレポートにまとめる。

### ■履修上の注意

- ・メンタルヘルスに関する社会問題に着目し、自分に引き寄せ、精神看護の視点で「考える」力を身につける。
- ・予習・復習の励行と共に、関心のあるテーマは、積極的に文献検索や既習の関連科目と結びつけて学習の視野を広げる。
- ・授業ごとのミニテストで知識確認を行う。

### ■評価方法

- ・授業態度10%、出席状況10%、定期試験80%、課題レポート等により、総合的に評価する。

### ■教科書

- ①吉松和哉他編集：他精神看護学I(精神保健学)、Nouvelle Hirokawa、2010
- ②川野雅資編集：精神看護学II(精神臨床看護学)、Nouvelle Hirokawa、2010
- ③川野雅資編著：「エビデンスに基づく精神科看護のケア関連図」、中央法規、2008
- ④坂田三允他：精神科看護とリハビリテーション、医学書院、2000
- ⑤宮本正巳：看護場面の再構成、日本看護協会出版会、1995

### ■参考書

- ①D. シュルツ；上田吉一監訳：「健康な人格」人間の可能性と7つのモデル、川島書店
- ②ゲイル・W・スチュアート編著；神郡博監訳：精神看護学の新しい展開
- ③他、適宜紹介

科目名	精神看護学援助論Ⅰ			担当教員 (単位認定者)	福山 なおみ 仙田 志津代	単位数	1
対象学年	2	授業方法	講義・(演習)・実習	必修・選択		必修	

### ■授業の到達目標・期待される学習効果

精神看護における看護援助の基本と、活用する技法について学び、心の健康を保持するための看護実践に活かすことができる。

### ■授業の概要

心の健康の保持増進及び精神に障害をもち危機的状況に陥った対象の援助に必要な理論と方法を学ぶ。また、他者とのかかわりの中で自己理解を深める学習を通して、患者と看護師関係における自己活用の能力を高め、精神保健医療システムにおける看護師の役割を理解し、人間の自立(自律)を育む支援について学ぶ。

### ■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	科目オリエンテーション 精神を病む人の理解(急性期から回復期、慢性期の看護、行動制限と看護)	精神看護学概論の復習 発病から回復、慢性期の看護
第2回	精神を病む人への看護援助の基本 ・日常生活援助	看護援助の基本を日常生活を通して考える。
第3回	看護過程の展開 (1) ・オレム・アンダーウッド 「セルフケア」	精神看護における日常生活援助をセルフケア理論から考える。
第4回	看護過程の展開 (2) ・ペプロウ 「看護師-患者関係の対人的プロセス」	対人的プロセスを4つの局面で説明する。
第5回	患者・看護師関係の振り返り (1) ①プロセスレコードと再構成 ペプロウ・オーランド・ウィーデンバック	再構成の意義を理解し、看護師と患者との関係を振り返り、援助の方向性を考える。
第6回	患者・看護師関係の振り返り (2) ②看護場面の再構成	看護師と患者との関係を振り返り、再構成する。
第7回	事例検討 (1) ロールプレイング	患者と看護師との関係について体験を通して考える。
第8回	事例検討 (2) ロールプレイング	患者と看護師との関係について体験を通して考える。
第9回	集団療法と看護 グループワークと看護	実際に体験を通して考える。
第10回	生活技能訓練(SST)と看護(1)	精神障がい者の特徴をとらえ、生活技能訓練の必要性と方法について考える。
第11回	生活技能訓練(SST)と看護(2)	実際に体験を通して考える。
第12回	作業療法とレクリエーション療法における看護	レクリエーション計画を作成することを通して看護について考える。
第13回	司法精神看護	精神障がい者と人権について事例を通して自分の考えをまとめる。
第14回	精神障がい者の家族支援(1) ・家族支援に必要な援助技術の原則、入院から退院へ向けた家族介入	精神障がい者の家族が抱える課題と援助のありかたを考える。
第15回	精神障がい者の家族支援(2) ・地域精神保健医療資源、訪問活動、他ソーシャルサポート	精神障がい者が地域で生活するために何が 필요한のか考える。

### ■履修上の注意

- ・精神に関連する科目、精神看護学概論で得た知識をつなげて学習する。
- ・復習、予習を行ない自己学習をして取り組むことが大切である。
- ・実際に体験を通して学ぶ内容については、自分の感じたことや考えたことを基にして考える。

### ■評価方法

出席状況10%、授業参加態度10%、レポート・試験等80%の総合評価で行なう。

### ■教科書

川野雅資編集：精神看護学Ⅱ精神臨床看護学 第5版, Nouvelle Hirokawa, 2010.

### ■参考書

授業内で適宜紹介する。



科目名	精神看護学援助論Ⅱ			担当教員 (単位認定者)	福山 なおみ 仙田 志津代	単位数	1
対象学年	2	授業方法	講義・演習・実習		必修・選択		必修

### ■授業の到達目標・期待される学習効果

精神に障がいをもつことで、精神機能、セルフケアの視点から、日常生活にどのように影響するかを学び、精神看護が生活を支援することを基盤にしていることを理解する。

### ■授業の概要

精神の健康上の問題に直面している人とその家族に対し、看護を実施するための方法論と援助技術を学ぶことを目的として、精神症状や精神状態によって影響された健康や生活をアセスメントし、健康と生活の質を高める看護方法について学習する。

### ■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	科目オリエンテーション 精神に障がいをもつ患者の理解と看護について	精神障がい者について考える。
第2回	精神症状のアセスメントと看護	精神症状について考える。
第3回	症状別看護 幻覚・妄想のある患者の看護	各症状について教科書で予習、復習しておくこと。
第4回	症状別看護 抑うつ状態の患者の看護	各症状について教科書で予習、復習しておくこと。
第5回	症状別看護 依存状態にある患者の看護	各症状について教科書で予習、復習しておくこと。
第6回	事例展開 ・躁うつ病患者の看護	各精神疾患について教科書を予習、復習しておくこと。
第7回	事例展開 ・操作をする患者の看護	各精神疾患について教科書を予習、復習しておくこと。
第8回	身体合併症をもつ患者の看護 ・イレウス ・誤嚥性肺炎 ・水中毒	各精神疾患について教科書を予習、復習しておくこと。
第9回	精神に障害をもつ患者の看護過程	各精神疾患について教科書を予習、復習しておくこと。
第10回	事例検討 事例紹介 ・統合失調症の障害をもつ患者を対象に看護過程の展開	事前に統合失調症について自己学習して授業に臨み、各時限の課題を達成する。
第11回	事例検討 ・精神機能、セルフケアの視点をを用いたアセスメント	事前に課題を自己学習して授業に臨み、各時限の課題を達成する。
第12回	事例検討 ・全体像からのアセスメント	事前に課題を自己学習して授業に臨み、各時限の課題を達成する。
第13回	事例検討 ・看護の目標設定	事前に課題を自己学習して授業に臨み、各時限の課題を達成する。
第14回	事例検討 ・計画立案	事前に課題を自己学習して授業に臨み、各時限の課題を達成する。
第15回	事例検討のまとめ	看護過程を通して統合失調症患者の看護について理解する。

### ■履修上の注意

- ・精神障害と精神症状をもつ患者の理解を深め精神看護について考える。
- ・心の看護について考える。
- ・精神に関連する科目、精神医学、精神看護学概論、精神看護学援助論Iで得た知識をつなげて学習する。

### ■評価方法

出席状況10%、授業参加態度10%、レポート・試験等80%の総合評価で行なう。

### ■教科書

川野雅資編集：精神看護学Ⅱ精神臨床看護学 第5版,Nouvelle Hirokawa,2010.

### ■参考書

授業内で適宜紹介する。

科目名	精神看護学実習		担当教員 (単位認定者)	福山 なおみ 仙田 志津代	単位数	2
対象学年	3	授業方法	講義・演習・実習	必修・選択	必修	

### ■実習の目的または到達目標

#### I. 実習目的

精神の障がいにより日常生活に影響をおよぼしている人々と家族に対する理解を深め、患者と看護者との関係を築きながら看護の果たす役割と援助方法を学ぶ。また、社会復帰とそのため地域の精神保健活動の重要性を理解し、他の医療チームとの連携と看護活動における看護者の役割を学ぶ。

#### II. 実習目標

- 精神に障がいをもち入院している人とその家族状況を理解する。
  - 精神に障がいをもつ人が入院に至った経過、生活背景が理解できる。
  - 精神機能の障がいや治療によって生じる身体機能および日常生活への影響が理解できる。
  - 精神に障がいをもつ人の家族状況が理解できる。
  - 精神に障がいをもつ人に関する制度・法律について理解できる。
  - サポートシステムを理解し精神に障がいをもつ人や家族の援助を考えることができる。
- 精神に障がいをもつ人が入院している施設の概要を理解する。
  - 入院施設の概要が分かる。
  - 入院施設が目指す役割を説明できる。
- 精神に障がいをもつ人の全体像の生活行動を通して生活の視点から理解し必要な看護を計画し、実施、評価する。
  - 精神機能が生活におよぼす影響をアセスメントできる。
  - アセスメントから、その人の伸ばせる能力や改善する課題を述べることができる。
  - その人らしさを取り入れ、ともに目標、計画を立案し、実施できる。
  - 実施した看護について評価、修正できる。
- 精神に障がいをもつ人とのかかわりを通して自己洞察を深める。
  - 精神に障がいをもつ人の表情や言動に関心をもつことができる。
  - 精神に障がいをもつ人の表情や言動から感情の動きやその意味を考えることができる。
  - 精神に障がいをもつ人の反応から、自分自身の感じ方や考え方、行動の仕方に気づくことができる。
  - 患者 - 看護者関係において、自分自身の感情や行動がどのように影響しているか考えることができる。
- 精神科におけるチーム医療の意義を理解し、看護の役割を見いだす。
  - 精神科におけるチーム医療の意義を理解できる。
  - さまざまな職種が他の職種とどのような連携をもちながら役割を果たしているのか知る。
  - 看護師の病棟の活動や、社会復帰への援助のもつ意味を理解できる。
  - 精神科におけるリハビリテーション看護の課題を考えることができる。

### ■実習履修要件

- 看護基礎実習IおよびIIの単位の修得
- 精神看護学概論・精神看護学援助論Iの単位の修得
- 精神看護学援助論I、IIの単位認定の受験資格要件を満たしていること

### ■実習時期及び実習日数・時間

実習時期：平成24年5月14日～8月3日  
 実習日数：2週間  
 実習時間：9時から17時

### ■実習上の注意

学内で学んできたことを活かし、精神に障がいをもつ患者とのかかわりをおして精神看護について考える機会にしてください。また、ひとつひとつの事柄に対して、自分はどう考えるのか自分に確かめる作業をしていきましょう。

### ■評価方法

出席状況10%、実習状況10%、記録物80%等を対象に、実習目標の到達度を、評価基準を用いて評価する。

科目名	母性看護学概論		担当教員 (単位認定者)	石沢 敦子	単位数	1
対象学年	2	授業方法	講義・演習・実習	必修・選択	必修	

■授業の到達目標・期待される学習効果

1. 母性の概要を理解し、母性看護の役割を述べる。
2. 各ライフステージにある母性を述べる。
3. 母性を取り巻く制度・環境を述べる。
4. 母性看護の現状と今後の展望を考える。

■授業の概要

母性とは、現に子どもを産み育てているもののほか、将来子どもを産み育てるべき存在、および過去においてその役目を果たしたものの、というWHOの定義の視点から、各ライフステージにおける母性について理解する。また、各期にある母性を取り巻く制度・環境についても理解を深める。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	母性看護の基盤となる概念・・・母性とは 母子と家族 リプロダクティブヘルス・ライツ ヘルスプロモーション 母性看護のあり方 母性看護と看護理論 ウェルネス	母性看護学概論 p2～40. 母性看護を構成する主なる概念と理論をまとめる
第2回		母性看護学概論 p2～40. 母性看護を構成する主なる概念と理論をまとめる
第3回	母性における倫理	母性看護学概論 p40～46. 母性看護と倫理についてまとめる
第4回	母性看護の対象を取り巻く社会の変遷と現状 母性看護の歴史の変遷と現状・・・	母性看護学概論 p48～82. 母子の健康問題や健康ニーズについて保健統計や歴史の変遷を通してまとめる
第5回	母性看護の対象を取り巻く環境・・・	母性看護学概論 p48～82. 母性看護の対象を取り巻く環境についてまとめる
第6回	母性看護の対象理解・・・女性のライフサイクルにおける形態・機能の変化 女性のライフサイクルと家族 (思春期 成熟期 更年期 老年期) 母性の発達・成熟・継承	母性看護学概論 p84～132. 生涯を通じた女性の健康の必要性についてまとめる
第7回		母性看護学概論 p85～132. 母性意識の発達についてまとめる
第8回	リプロダクティブヘルスケア・・・ 家族計画 人工妊娠中絶	母性看護学概論 p226～273. 性感染症についてまとめる

■履修上の注意

予習・復習をきちんと行ってから、講義に臨むこと。

■評価方法

授業態度、出席状況、定期試験(合わせて90%)、課題レポート(10%)により、総合的に評価する。

■教科書

森恵美 他 著：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学[1]母性看護学概論(第11版)、医学書院、2010  
森恵美 他 著：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学[2]母性看護学各論(第11版)、医学書院、2010

■参考書

村本淳子・森明子 編著/東野妙子 ほか著：母性看護学概論 第2版、医歯薬出版、2007



科目名	母性看護援助論Ⅰ			担当教員 (単位認定者)	石沢 敦子 堀腰 撰子	単位数	1
対象学年	2	授業方法	講義・(演習)・実習		必修・選択		必修

### ■授業の到達目標・期待される学習効果

妊娠・分娩・産褥・新生児の生理と異常が理解できる。  
 妊婦・産婦・褥婦及び新生児の身体的・心理的・社会的特徴、および必要な看護が理解できる。  
 妊婦・産婦・褥婦及び新生児を取り巻く家族に必要な看護が理解できる。

### ■授業の概要

周産期にある女性及び新生児の生理的变化と特徴的な疾病、治療および生活上の課題を理解し、家族を含めた基本的看護援助について理解する。

### ■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	科目オリエンテーション 妊娠期—正常編(1) A 妊娠期の身体的特性	人体構造機能学Ⅱ、Ⅲの女性生殖器の構造と性周期、胎生期を復習して臨む
第2回	妊娠期—正常編(2) B 妊娠期の心理・社会的特性	人体構造機能学Ⅱの妊娠と出産を復習して臨む
第3回	妊娠期—異常編 A 妊娠の異常	1回目の妊娠の生理を復習して臨む
第4回	妊娠期における看護(1) C 妊婦と胎児のアセスメント	妊婦と胎児のアセスメントについて予習
第5回	妊娠期における看護(2) D 妊婦と家族の看護	妊娠期のDVDを見ておくこと
第6回	分娩期—正常編 A 分娩の要素 B 分娩の経過	人体構造機能学Ⅱの妊娠と出産を復習して臨む臨む
第7回	分娩期—異常編 A 分娩の異常	6回目の分娩の経過を復習しておく
第8回	分娩期における看護(1) C 産婦・胎児、家族のアセスメント D 産婦と家族の看護	産婦・胎児・家族のアセスメントについて予習
第9回	分娩期における看護(2) E 分娩期の看護の実際	妊娠期のDVDを見ておくこと
第10回	産褥期—正常編(1) A 産褥経過	人体構造機能学Ⅱの妊娠と出産を復習して臨む
第11回	産褥期—異常編 B 産褥の異常	10回目の産褥期の経過を復習しておくこと
第12回	産褥期の看護(1) B 褥婦のアセスメント C 褥婦と家族の看護	褥婦の健康状態のアセスメントについて予習しておくこと
第13回	産褥期の看護(2) D 産褥の異常と看護	産褥期のDVDを見ておくこと
第14回	新生児期—正常編・異常編 A 新生児の生理 B 新生児の異常	人体構造機能学Ⅲの小児の特徴を復習して臨む
第15回	新生児期における看護 C 新生児のアセスメント D 新生児の看護	新生児のDVDを見ておくこと

### ■履修上の注意

予習・復習をきちんと行ってから、講義に臨むこと。

### ■評価方法

授業態度、出席状況、定期試験(合わせて90%)、課題レポート(10%)により、総合的に評価する。

### ■教科書

森恵美 他 著:系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学[1]母性看護学概論(第11版)、医学書院、2010  
 森恵美 他 著:系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学[2]母性看護学各論(第11版)、医学書院、2010

### ■参考書

石原昌・東野妙子・村本淳子 編著:母性看護学 1 第2版 妊娠・分娩、医歯薬出版、2006  
 今津ひとみ・加藤尚美 ほか編著:母性看護学 2 第2版 産褥・新生児、医歯薬出版、2006  
 井上博実 他著:病気が見える vol.10 産科、メディックメディア

科目名	母性看護援助論Ⅱ			担当教員 (単位認定者)	石沢 敦子 堀腰 撰子	単位数	1
対象学年	3	授業方法	講義・(演習)・実習		必修・選択	必修	

■授業の到達目標・期待される学習効果

紙上事例を用いて、妊婦・産婦・褥婦および新生児に必要なケアを看護過程を用いて理解し、記述できる。  
母性看護に必要な基本的技術の原理と根拠を明確にし、実施することができる。

■授業の概要

母性看護援助論Ⅰを踏まえて、母性看護に必要な観察・援助技術を学ぶ。また、妊婦・産婦・褥婦・新生児各々の特性を踏まえ、効果的に看護を展開するための方法（看護過程）を学生自らが主体的に理解し、実践へつなげる。

■授業計画

回数	Aグループ		Bグループ	
	授業内容	予習・復習	授業内容	予習・復習
第1回	科目オリエンテーション, 妊婦・産婦・褥婦の看護過程について			
第2回 第3回	新生児期の看護 (抱き方・寝かせ方・おむつ交換・授乳・排気・沐浴・観察)	新生児の生理・看護について復習しておく	1. 看護過程(産褥期 新生児) *グループワーク	母性援助Ⅰ 産褥期・新生児期を中心に復習する
第4回 第5回	1. 看護過程(産褥期 新生児) *グループワーク	母性援助Ⅰ 産褥期・新生児期を中心に復習する	新生児期の看護 (抱き方・寝かせ方・おむつ交換・授乳・排気・沐浴・観察)	新生児の生理・看護について復習しておく
第6回 第7回	妊娠期・分娩期の看護技術 (レオポルド触診 腹囲・子宮底の測定 胎児心音の聴取 妊婦体操 など)	母性援助Ⅰ 妊娠期・分娩期を中心に復習する	2. 看護過程(産褥期 新生児) *グループワーク	母性援助Ⅰ 産褥期・新生児期を中心に復習する
第8回 第9回	2. 看護過程(産褥期 新生児) *グループワーク	母性援助Ⅰ 産褥期・新生児期を中心に復習する	妊娠期・分娩期の看護技術 (レオポルド触診 腹囲・子宮底の測定 胎児心音の聴取 妊婦体操 など)	母性援助Ⅰ 妊娠期・分娩期を中心に復習する
第10回 第11回	産褥期の看護技術 (乳房の観察 子宮復古の観察・促進の援助 産褥体操)	母性援助Ⅰ 産褥期を中心に復習する	保健指導 (新生児の抱き方・寝かせ方 おむつ交換) *グループワーク	新生児の生理・看護、保健指導について復習しておく
第12回 第13回	保健指導 (新生児の抱き方・寝かせ方 おむつ交換) *グループワーク	新生児の生理・看護、保健指導について復習しておく	産褥期の看護技術 (乳房の観察 子宮復古の観察・促進の援助 産褥体操)	母性援助Ⅰ 産褥期を中心に復習する
第14回 第15回	学生の発表 / 看護過程のまとめ			

■履修上の注意

予習・復習をきちんと行ってから、講義に臨むこと。

■評価方法

授業態度、出席状況、定期試験(合わせて90%)、課題レポート(10%)により、総合的に評価する。

■教科書

森恵美 他 著:系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学[1]母性看護学概論(第11版)、医学書院、2010  
森恵美 他 著:系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学[2]母性看護学各論(第11版)、医学書院、2010  
日本助産診断・実践研究会 編著:実践マタニティ診断第2版、医学書院、2011

■参考書

立岡弓子監修:周産期ケアマニュアル、医学芸術社、2007  
北川真理子他:根拠が分かる母性看護技術、メヂカルフレンド社、2008

科目名	母性看護学実習			担当教員 (単位認定者)	石沢 敦子 堀腰 撰子	単位数	2
対象学年	3	授業方法	講義・演習・ <b>実習</b>	必修・選択		必修	

#### ■実習の目的または到達目標

##### <ねらい>

母性看護学実習は、女性の一生の中で、最もドラマティックな“生命の誕生”の瞬間に立ち会い、一人の女性が妊娠、分娩、産褥をとおして、“母親として成長していく過程”にかかわる実習である。

人間にとって生理的現象である妊娠・分娩・産褥ではあるが、女性の生涯の中でも特に発達危機に陥りやすい特徴がある。そこで、この時期にある女性と新生児及びその家族を対象に、ウェルネスの観点から妊娠、出産および育児において、健康の維持増進や健康上の課題を解決するための基礎的能力を養うことをねらいとする。また、実習を通して自身の親性観（母性・父性）を深められることをねらいとする。

##### <目的>

妊娠・分娩・産褥各期にある女性と新生児及びその家族の特徴を理解し、ウェルネスの観点から妊娠および出産に関する健康の維持増進や健康上の課題を解決するための基礎的実践力と看護職としての態度・姿勢を養う。

##### <目標>

- 1) 妊婦・産婦・褥婦および新生児の生理的な経過と母子関係を理解する。
- 2) 妊婦、産婦、褥婦および新生児とその家族への看護の実際を理解する。
- 3) 母性看護の対象をとおして、倫理的観点に基づいた状況判断や実践、及び倫理的責任課題について理解する。
- 4) 母性看護学実習を通して、自己の親性観（母性・父性観）を深められる。
- 5) 実習体験に基づいて、母性看護の役割や看護の本質を考察し、自己の課題を見出せる

#### ■実習履修要件

1. 母性看護学概論・母性看護援助論Ⅰの単位の修得
2. 母性看護援助論Ⅱの単位認定の受験資格要件を満たしていること

#### ■実習時期及び実習日数・時間

1. 実習要綱 オリエンテーション用紙参照（別途配布する）
2. 1グループ4名で2週間の病棟実習と外来実習をする。
3. 期 間：平成24年5月14日（月）～8月3日（金）  
平成25年1月21日（月）～3月15日（金）
4. 施設：公立藤岡総合病院、公立富岡総合病院、組合立利根中央病院、西吾妻福祉病院

#### ■実習上の注意

1. 別紙実習要綱を参照し、実習に臨む。
2. 欠席しないよう体調管理をして実習に臨む。
3. 既習学習内容を復習して、実習に臨む。

#### ■評価方法

1. 別紙実習要綱参照
2. 実習内容及び実習中の態度・提出記録・出席状況など総合的にふまえて判断する。

科目名	小児看護学概論		担当教員 (単位認定者)	西山 智春	単位数	1
対象学年	2	授業方法	講義・演習・実習	必修・選択	必修	

### ■授業の到達目標・期待される学習効果

#### 《科目の目標》

1. 子どもの権利を尊重した子ども観を育む。
2. 小児看護の課題・目標・役割を理解し、小児看護の特徴が理解できる。
3. 小児各期の成長発達と看護・家族役割機能が理解できる。
4. 保健医療チームにおける小児看護活動と他種職との連携が理解できる。

### ■授業の概要

現代の子どもと家族の概況をとらえ、小児の健康と小児各期の成長発達の特徴および、子ども観を育み、小児とその家族に対する支援・看護の役割機能について教授する。

小児看護学概論は、小児看護学の学習の基盤（導入）であり、小児看護援助方法Ⅰ、小児看護援助方法Ⅱ、小児看護学実習へと展開される。子どものイメージと全体像が描けるような授業を展開する。

### ■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	科目オリエンテーション 1) 健康な子どもの権利 2) 病院に入院している子どもの権利憲章 3) 小児看護と倫理	雑誌論文・新聞報道等により、子どもに関する社会的問題等の情報を予備知識として得ておく
第2回	1) 子どもを取り巻く社会環境 2) 子ども観の変遷 3) 小児医療、小児看護の変遷	テキスト及び授業内容に関連する参考図書等を読む
第3回	1) 小児看護に関する法律 2) 母子保健施策 3) 小児保健統計	少子化対策に関する情報を得て、自己の考えをまとめておく
第4回	乳幼児の健康問題と社会的背景	子育てに関する問題等の情報を予備知識として得ておく
第5回	学童・思春期の健康問題と社会的背景	人体構造機能学Ⅲ(小児)での学び(学童思春期の成長発達)を復習しておく
第6回	小児期の母子関係と家族機能 家族のライフサイクルと段階別にみた基本的発達課題	雑誌論文・新聞報道等により、子どもと家族に関する社会的問題または課題について情報収集し予備知識を得ておく
第7回	保健医療チームにおける小児看護活動と他種職との連携	学習課題について、情報収集し、レポート作成する
第8回	小児看護の目標と役割 小児看護の方向性と課題	議論に加わることができるよう自己の意見をまとめておく

### ■履修上の注意

- ・履修に必要とされる予備的知識や技能
- ・1年次後期開講の人体構造機能学Ⅲ(小児・老年)必修2単位を取得していることが望ましい。
- ・小児看護学概論(必修)は、小児看護学学習のための基盤となる科目であり、看護師国家試験出題基準に含まれる。したがって
  - ①人体構造機能学Ⅲ(小児)の知識が基礎となるため、各自よく復習し、既修の知をもって授業に臨むこと
  - ②現代社会における子どもと家族に関する現状と社会的問題について、各自様々な手段で情報収集し、予備的知識を得ておくこと
  - ③グループ討議を行うので、各自の考えをまとめ、ディスカッションできる準備をして授業に参加すること、が必須である。
- ・さらに、子どもへの関心と課題意識をもち、授業への積極的参加と学習を期待する。
- ・各回小テストを実施する。

### ■評価方法

授業態度・出席状況(10%)、課題レポート・小テスト(40%)、定期試験(50%)により、総合的に評価する。

### ■教科書

- 1) 奈良間美保他著, 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学[1] 小児看護学概論・小児臨床看護総論, 医学書院
- 2) 中野綾美編: ナーシング・グラフィカ28 小児看護学—小児の発達と看護, メディカ出版
- 3) 松尾宣武・濱中喜代編集, 小児看護学概論・小児保健, メヂカルフレンド社

### ■参考書



科目名	小児看護援助論Ⅰ			担当教員 (単位認定者)	西山 智春 櫻井 美和	単位数	1
対象学年	2(前期)	授業方法	講義・演習・実習		必修・選択	必修	

### ■授業の到達目標・期待される学習効果

1. 健康な乳幼児期、学童期、思春期にある子どもの日常生活習慣の自立過程と援助方法を理解する。
2. 小児各期の健康問題と、それに対する保健指導・健康教育を理解する。
3. 小児のフィジカルアセスメントを理解する。
4. 小児各期の不慮の事故と安全教育について理解する。

### ■授業の概要

健康な小児の成長発達を促すための援助方法、さらに、正常な成長発達を阻害する要因とその予防についての保健指導を学ぶ。また、フィジカルアセスメント・一次救命処置等のモデルを使用した演習を取り入れていく。

### ■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	科目オリエンテーション 小児期にある子どもの健康な生活への支援: 1) 育児の概念と方法 2) コミュニケーション	雑誌論文・新聞報道等により、育児、子育てに関する社会的問題等の情報を予備知識として得ておく
第2回	小児期にある健康な子どもの日常生活習慣の発達過程と支援[1]: 環境 ・発達段階別の安全環境、入院している子どもの安全環境	子どもの各器官の構造・機能の発達の特徴を学習する
第3回	小児期にある健康な子どもの日常生活習慣の発達過程と支援[2]: 食事と栄養 ・発達段階別栄養の特徴、離乳食、食事行動の発達過程とその支援	栄養の特徴、離乳食、食事行動の発達過程を学習する
第4回	小児期にある健康な子どもの日常生活習慣の発達過程と支援[3]: 排泄 ・排泄行動の発達過程(トイレトレーニング)とその支援	排泄行動の発達過程を学習する
第5回	小児期にある健康な子どもの日常生活習慣の発達過程と支援[4]: 清潔と衣生活 ・清潔行動(衣服の着脱・整容も含む)の発達過程とその支援(清拭・部分浴など)	清潔行動の発達過程を学習する
第6回	小児期にある健康な子どもの日常生活習慣の発達過程と支援[5]: 睡眠と活動 ・発達段階別の生活リズム、睡眠の意義とメカニズム、発達段階別の遊び ・学習とその意義、睡眠・遊び・学習への支援	睡眠、遊び、学習の発達過程を学習する
第7回	小児期にある子どもへの保健指導・健康教育 ・発達段階別の保健指導、健康教育の特徴	子どもの認知発達の特徴を学習する
第8回	子どもの示す主な症状とその看護[1] ・不機嫌および啼泣、痛み、呼吸困難、チアノーゼ、ショック、嘔吐、下痢、便秘	左記の症状の発症メカニズムを学習する
第9回	子どもの示す主な症状とその看護[2] ・脱水、浮腫、出血、貧血、けいれん、意識障害	左記の症状の発症メカニズムを学習する
第10回	小児のフィジカルアセスメント[1]	テキスト1) 第8章 小児のアセスメントについて精読する
第11回	小児のフィジカルアセスメント[2]	テキスト1) 第8章 小児のアセスメントについて精読する
第12回	小児のフィジカルアセスメント[3] [演習] ・バイタルサイン測定、身体計測	事前学習課題に取り組む
第13回	小児期の不慮の事故と予防および事故時の対処[1] ・不慮の事故と予防、安全教育、一次救命処置の方法	子どもの各器官の構造・機能の発達の特徴の学習を通し、子どもの事故に影響する要因を整理する
第14回	小児期の不慮の事故と予防および事故時の対処[2] [演習] ・子どもへの心肺蘇生法(AEDを用いた心肺蘇生法も含む)	事前学習課題に取り組む
第15回	総括	

### ■履修上の注意

1. 次の科目で学習した知識・技術を復習した上で授業に臨むこと: 小児看護学概論、人体構造機能学Ⅲ[小児特性]、人間の成長発達と障害、人体構造機能学Ⅰ・Ⅱなど。
2. 授業の進行過程において、各自がポートフォリオを作成すること。また、ポートフォリオを持参し、内容を補充しながら授業に臨むこと。
3. 演習を欠席した場合、再演習を申し出ること。未演習のまま単位を修得することはできない。
4. 授業中に提示した課題を必ず提出すること。未提出の場合、単位を修得することはできない。

### ■評価方法

授業態度・出席状況(10%)、定期試験(70%)、授業中に実施する小テスト(10%)、課題レポート(10%)により、総合的に評価する。

### ■教科書

- 1) 奈良間美保他著: 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学[1] 小児看護学概論・小児臨床看護総論, 医学書院
- 2) 中野綾美編: ナーシング・グラフィカ28 小児看護学-小児の発達と看護, メディカ出版

### ■参考書

- 1) 中野綾美編: ナーシング・グラフィカ29 小児看護学-小児看護技術, メディカ出版
- 2) 山元恵子監修: 写真でわかる小児看護技術, インターメディカ

科目名	小児看護援助論Ⅱ			担当教員 (単位認定者)	櫻井 美和	単位数	1
対象学年	2(後期)	授業方法	講義・(演習)・実習		必修・選択	必修	

### ■授業の到達目標・期待される学習効果

1. 小児期に生じやす健康障害の経過、症状、治療を理解し、健康問題が子どもと家族に及ぼす影響を全人的に理解する。
2. 上記1を踏まえ健康問題を抱える子どもと家族への主要な看護を理解する。
3. 子どもの発達段階、健康状態(病期、疾患、症状)に応じた看護を展開するための基本的知識・技術を習得する。
4. 子どもの発達段階、健康状態、個別性に応じた看護過程を展開する方法を理解する。

### ■授業の概要

健康問題を抱える子どもの健全な成長発達に向けて、子どもの発達段階、健康状態、個別性に応じた看護を展開する上で必要な基本的知識・技術を習得する。具体的には、視覚教材を活用するとともに、様々な発達段階にあり、様々な疾患を抱える子どもと家族の事例を基に、イメージ化をはかり授業を展開する。

### ■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	科目オリエンテーション・乳幼児期・学童期・思春期にある子どもの健康問題と看護の方法[1] ・疾病および入院による子どもと家族への影響と看護	子どもの権利、入院している子どものストレスとストレスに対する反応・対応について学習する
第2回	乳幼児期・学童期・思春期にある子どもの健康問題と看護の方法[2] ・疾病を抱える子どもへの日常生活支援	食事、排泄、睡眠、遊びと学習の意義とそれぞれの基本的生活習慣の発達過程を学習する
第3回	乳幼児期・学童期・思春期にある子どもの健康問題と看護の方法[3] ・急性期にある子どもと家族への看護【川崎病/発熱・脱水・発疹】	川崎病の病態、症状、および検査・治療について学習する
第4回	乳幼児期・学童期・思春期にある子どもの健康問題と看護の方法[4] ・長期療養を必要とする子どもと家族への看護【ネフローゼ症候群/浮腫】	ネフローゼ症候群の病態、障害、症状および検査・治療について学習する
第5回	乳幼児期・学童期・思春期にある子どもの健康問題と看護の方法[5] ・予後不良の疾患を抱える子どもと家族への看護【白血病/痛み・骨髄抑制の症状】	白血病の病態、症状および検査・治療について学習する
第6回	乳幼児期・学童期・思春期にある子どもの健康問題と看護の方法[6] ・ハイリスク新生児と家族への看護【低出生体重/呼吸困難・呼吸窮迫症候群】	低出生体重児の身体的・生理的特徴、合併しやすい障害や症状について学習する
第7回	乳幼児期・学童期・思春期にある子どもの健康問題と看護の方法[7] ・障害を抱える子どもと家族への看護【重症心身障がい/けいれん】	重症心身障害を抱える子どもの身体的・生理的特徴、合併しやすい障害や症状について学習する
第8回	治療・検査・処置を必要とする子どもと家族への看護[1] ・採血・採尿・腰椎穿刺・骨髄穿刺を受ける子どもへの看護	左記の検査の目的・方法・実施手順・合併症について学習する
第9回	治療・検査・処置を必要とする子どもと家族への看護[2] ・与薬・酸素療法・輸液療法を受ける子どもへの看護	左記の検査の目的・方法・実施手順・合併症について学習する
第10回	治療・検査・処置を必要とする子どもと家族への看護[3] ・手術を受ける子どもと家族への看護	小児期にある子どもの呼吸器・循環器・体温調節機能・免疫機能の発達の特徴に基づき、麻酔・手術による身体の影響について学習する
第11回	健康問題を抱える子どもの看護過程の展開[1]〔演習〕 ・モデル事例：幼児期にある気管支喘息の子どもと家族	気管支喘息の病態、症状および検査・治療について予習する
第12回	健康問題を抱える子どもの看護過程の展開[2]〔演習〕 ・モデル事例：幼児期にある気管支喘息の子どもと家族	授業中に提示された看護過程の課題に取り組む
第13回	健康問題を抱える子どもの看護過程の展開[3]〔演習〕 ・モデル事例：幼児期にある気管支喘息の子どもと家族	授業中に提示された看護過程の課題に取り組む
第14回	健康問題を抱える子どもの看護過程の展開[4]〔演習〕 ・モデル事例：幼児期にある気管支喘息の子どもと家族	授業中に提示された看護過程の課題に取り組む
第15回	健康問題を抱える子どもの看護過程の展開[5]〔演習〕および総括 ・モデル事例：幼児期にある気管支喘息の子どもと家族	授業中に提示された看護過程の課題に取り組む

### ■履修上の注意

1. 第3～7回目、第11～15回目の授業には、「疾病・治療論各論Ⅲ」で学習した疾病および症状(【 】内の記載)の病態生理・検査・治療などについて事前学習した上で授業に臨むこと。
2. 次の科目で学習した知識・技術を復習した上で授業に臨むこと：小児看護学概論、小児看護援助論Ⅰ、人体構造機能学Ⅲ〔小児特性〕、人間の成長発達と障害、人体構造機能学Ⅰ・Ⅱ、疾病・治療論総論、疾病治療論各論Ⅰ・Ⅱ、臨床病理病態論、臨床薬理・薬物論、看護方法論、看護診断と看護治療など。
3. 授業の進行過程において、各自がポートフォリオを作成すること。また、ポートフォリオを持参し、内容を補充しながら授業に臨むこと。
4. 授業中に提示した課題を必ず提出すること。未提出の場合、単位を修得することはできない。

### ■評価方法

授業態度・出席状況(10%)、定期試験(70%)、授業中に実施する小テスト(10%)、課題レポート(10%)により、総合的に評価する。

### ■教科書

- 1) 奈良間美保他：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学[1] 小児看護学概論・小児臨床看護総論，医学書院
- 2) 奈良間美保他：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学[2] 小児臨床看護各論，医学書院
- 3) 中野綾美編：ナーシング・グラフィカ28 小児看護学—小児の発達と看護，メディカ出版

### ■参考書

- 1) 中野綾美編：ナーシング・グラフィカ29 小児看護学—小児看護技術，メディカ出版
- 2) 石黒彩子，浅野みどり編：発達段階からみた小児看護過程+病態関連図，医学書院



科目名	小児看護学実習			担当教員 (単位認定者)	西山 櫻井 智春 美和	単位数	2
対象学年	3(前期)	授業方法	講義・演習・ <b>実習</b>	必修・選択		必修	

### ■実習の目的または到達目標

#### 実習目的

様々な健康状態、発達段階にある子どもとその家族を統合的に理解し、健康の回復および維持・増進を目指した個別性を考慮した看護を実践するための基礎的能力を養うとともに、小児看護の役割・機能を学ぶ。

#### 実習目標

- 1) 小児期にある対象を身体的・心理的・社会的側面から統合的に理解する
- 2) 小児期にある対象の顕在的・潜在的な健康問題とその支援の必要性を身体的・心理的・社会的側面からアセスメントする
- 3) 小児期にある対象の顕在的・潜在的な健康問題の解決および回避に向けた個別的な看護計画を立案・実施・評価する
- 4) 小児看護に必要な基本的な看護技術を習得する
- 5) 小児期にある対象の保健医療福祉における看護の役割・機能を理解する
- 6) 小児期にある対象の理解および看護実践をとおして、看護の役割・機能とその意義を理解する
- 7) 看護学の初学者として、看護の役割・機能を果たすための責任、および望ましい姿勢・態度を確認する。

### ■実習履修要件

以下の要件を満たしている者が、小児看護学実習に臨むことができる。

1. 看護基礎実習Ⅰ、看護基礎実習Ⅱの単位修得
2. 小児看護学概論の単位修得
3. 小児看護援助論Ⅰ、小児看護援助論Ⅱの単位修得

### ■実習時期及び実習日数・時間

実習期間：3年前期において実施する。  
実習時間：90時間を基本とする。

### ■実習上の注意

実習要項（共通要綱および小児看護学実習臨地実習要項）を参照し、遵守すること。

### ■評価方法

小児看護学実習の一般目標および行動目標を評価基準として、各施設実習、学内演習、カンファレンスにおける学生の言動、記録物およびレポートの記載内容により、単位認定教員が評価、判定する。

科目名	成人看護学概論			担当教員 (単位認定者)	平賀 元美	単位数	1
対象学年	2(前期)	授業方法	講義・演習・実習		必修・選択	必修	

■授業の到達目標・期待される学習効果

成人の特徴及び健康問題を理解するとともに、成人の問題への取り組み方の特徴を理解して、看護に役立てる能力を身につける。

■授業の概要

既習の知識を想起して成人の特徴を明らかにするとともに、成人の健康障害の特徴を理解する。また成人の問題解決方法について理解し、看護の方法を検討できる能力を養う。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	科目オリエンテーション 成人看護学の構造と学習課題	テキスト1)を参照
第2回	成人期にある人々の理解 成人期における身体的発達、心理社会的発達(発達課題、社会的役割)	テキスト1)を参照 1年次の人間の成長発達と障害を復習 テキスト2)国民衛生の動向を持参
第3回	成人期にある人々の理解 成人各期にある人々を取り巻く環境と健康課題 成人各期にある人々の生活習慣と健康課題	テキスト1)を参照 1年次の人間の成長発達と障害を復習 テキスト2)国民衛生の動向を持参
第4回	成人看護の目的と特性 成人看護の機能する場と役割	テキスト1)を参照
第5回	成人期にある人々の健康の保持増進のための看護 エンパワーメント、ヘルスプロモーション、メンタルヘルスケアの理解	テキスト1)3)を参照
第6回	成人の健康障害とその経過の特徴 (急性期、回復期、慢性期、終末期、周手術期)	テキスト1)3)を参照
第7回	成人期にある人々の健康逸脱・疾病時の看護(慢性的な経過) コンプライアンス、セルフケア、セルフケアグループの理解	テキスト1)3)を参照
第8回	成人期にある人々の健康逸脱・疾病時の看護(急性的な経過、終末的な経過) ストレスコーピング、悲嘆のプロセス、危機の理解	テキスト1)3)を参照

■履修上の注意

人体構造機能学、疾病治療論を習得のこと。

■評価方法

筆記試験

■教科書

- 1) 小松浩子他 系統看護学講座成人看護学[1] 成人看護学総論 医学書院
- 2) 国民衛生の動向
- 3) 黒田裕子 よくわかる中範囲理論 学研

■参考書

授業内で適宜紹介する。

科目名	成人看護援助論Ⅰ			担当教員 (単位認定者)	平賀 元美 福山 なおみ 他	単位数	1
対象学年	2 (前期)	授業方法	講義・(演習)・実習		必修・選択	必修	

### ■授業の到達目標・期待される学習効果

成人における自己効力感、エンパワメントを理解し、慢性的な疾患やセルフケア不足によるセルフマネジメント及びセルフケア再獲得のための援助方法を学ぶ。また、ストレスの多い成人期にある対象と健康障害について学習する。それによって成人の健康問題を生活習慣や役割の変化とともに理解し看護出来る能力を養う。

### ■授業の概要

1. 疾病をもち、かつ生活者である成人にとってのセルフケアの概要と必要性を理解する。
2. セルフコントロールのために必要な生活習慣の再獲得について、その重要性和援助の方法を理解する。
3. ストレス状態にある成人に対してセルフセルフマネジメント及び自己コントロールの援助方法を理解する。
4. 治癒困難な病状にある患者の看護を実践できる判断能力を身に付ける。

### ■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	科目オリエンテーション A. 免疫力低下状態にある成人の看護 [1] ・感染症の原因と対策及び感染症に罹患した患者の看護 ・医療関連感染で問題となる感染症と対策 ・流行性ウイルス性感染症にある患者の看護	テキスト1) アレルギー、膠原病、感染症を参照
第2回	A. 免疫力低下状態にある成人の看護 [2] ・耐性菌感染症にある患者の理解 ・自己免疫力を高めるための看護	テキスト1) および2) 血液参照
第3回	B. ストレスによる健康障害状態にある成人の看護 [1] ・心筋梗塞、胃潰瘍、潰瘍性大腸炎など ・セルフマネジメント	テキスト3) 消化器参照
第4回	B. ストレスによる健康障害状態にある成人の看護 [2] ・身体の一部を喪失した人の看護	テキスト3) 消化器参照
第5回	A. 免疫力低下状態にある成人の看護 [3] ・白血病患者の看護	テキスト1) および2) 血液参照
第6回	A. 免疫力低下状態にある成人の看護 [4] ・後天性免疫不全症候群 (AIDS) にある患者の理解 ・感染予防の考え方と日常生活 ・偏見と差別、隔離などの課題に向けての看護のあり方	テキスト1) および2) 血液参照
第7回	C. 生活行動に障害のある成人の看護 [1] ・セルフケア再獲得が必要な患者の理解 ・セルフケア不足の患者の日常生活にかかわる援助 ・セルフケアの必要性と再獲得、再獲得を支援する方法、システムについて ・慢性呼吸器疾患患者の看護	テキスト6) 呼吸器参照
第8回	D. 生涯にわたりセルフコントロールを必要とする成人の看護 [5] ・透析体験と生活のコントロールについて	テキスト5) 腎・泌尿器参照
第9回	D. 生涯にわたりセルフコントロールを必要とする成人の看護 [1] ・糖尿病患者の理解	テキスト4) 内分泌参照
第10回	D. 生涯にわたりセルフコントロールを必要とする成人の看護 [2] ・糖尿病患者のセルフコントロールのための看護 (食事療法、薬物療法、運動療法)	テキスト4) 内分泌参照
第11回	D. 生涯にわたりセルフコントロールを必要とする成人の看護 [3] ・慢性腎炎患者の看護	テキスト5) 腎・泌尿器参照
第12回	D. 生涯にわたりセルフコントロールを必要とする成人の看護 [4] ・透析患者の看護	テキスト5) 腎・泌尿器参照
第13回	C. 生活行動に障害のある成人の看護 [2] ・SLE, リウマチ患者の看護	テキスト1) 膠原病参照
第14回	C. 生活行動に障害のある成人の看護 [3] ・神経難病患者の理解と看護 (パーキンソン、ALS)	テキスト7) 脳・神経参照
第15回	D. 生涯にわたりセルフコントロールが必要な成人の看護 [6] ・慢性疾患とセルフマネジメント 肝炎患者の看護	テキスト3) 消化器参照

### ■履修上の注意

各回とも人体構造機能学および疾病治療論の復習を十分に行い講義に臨むこと

### ■評価方法

筆記試験

### ■教科書

- 1) 竹村信彦他：系統看護学講座成人看護学 [1] アレルギー・膠原病感染症 医学書院
- 2) 飯野京子他：系統看護学講座成人看護学 [4] 血液・造血器 医学書院
- 3) 金田 智他：系統看護学講座成人看護学 [5] 消化器 医学書院
- 4) 黒江ゆり子他：系統看護学講座成人看護学 [6] 内分泌・代謝 医学書院
- 5) 大東真志他：系統看護学講座成人看護学 [8] 腎・泌尿器 医学書院
- 6) 浅野浩一郎他：系統看護学講座成人看護学 [2] 呼吸器 医学書院
- 7) 竹村信彦他：系統看護学講座成人看護学 [7] 脳・神経 医学書院

### ■参考書

講義の中で適宜提示する。

科目名	成人看護援助論Ⅱ			担当教員 (単位認定者)	赤石 三佐代 他	単位数	1
対象学年	2(前期)	授業方法	講義・(演習)・実習	必修・選択		必修	

### ■授業の到達目標・期待される学習効果

1. 成人期のあらゆる健康レベルの対象を理解し、健康特性にあわせた看護実践能力を学習する。
2. 手術を受け身体の一部を喪失した患者の看護を実践できる能力を身に付ける。
3. 生体侵襲を受ける患者に必要な基本的援助技術を習得する。
4. クリティカルな状態にある患者に必要な基本的援助技術を習得する。
5. 検査に必要な成人援助技術について習得する。

### ■授業の概要

成人看護に必要な援助技術の理論と実際を教授する。基礎看護技術論をベースに対象特性、疾病特性を加味した援助技術を教授する。

手術を受ける患者と家族への看護方法、救急時のケアなどについて、対象特性や疾病特性および援助の根拠とともに学習し、演習を通し看護実践能力の向上を目指す。

### ■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	科目オリエンテーション 成人の健康レベルに応じた看護 1) 対象の理解 2) 手術による身体侵襲	外科看護の特徴と課題を読んで講義に臨む
第2回	手術を受ける成人の看護 [1] 1) 周手術期看護 2) 検査看護 3) 術前看護	テキストの周手術期看護の流れに目を通しておく
第3回	手術を受ける成人の看護 [2] 1) 合併症予防 2) 疼痛管理 3) 早期離床	合併症にはどのようなものがあるか調べておく
第4回	手術を受ける成人の看護 [3] 1) 胃がん患者の看護	事例を提示するので読んでくる
第5回	手術を受ける成人の看護 [4] 1) 術後管理 創傷処置 点滴中の更衣	胃がんの手術後の看護を調べる
第6回	手術を受ける成人の看護 [5] 1) 術後管理 2) 創傷処置 3) 点滴中の更衣 <演習>	根拠を調べておく ポイントをまとめる
第7回	手術を受ける成人の看護 [6] 1) 大腸がん患者の看護	大腸がん患者の看護を調べておく
第8回	手術を受ける成人の看護 [7] 1) ストマケア、ドレナージ 2) 胃チューブ挿入、留置カテーテルの管理	それぞれの技術の根拠を調べておく
第9回	クリティカルな状態にある患者の看護 [1] 1) 心肺停止状態への対応 2) ショック時の看護	人工呼吸の方法を読んでおく
第10回	クリティカルな状態にある患者の看護 [2] 1) 心肺蘇生法 <演習>	根拠を調べておく ポイントをまとめる
第11回	クリティカルな状態にある患者の看護 [3] 1) 外傷・熱傷患者の看護 2) 心電図	心臓の解剖を復習しておく
第12回	機能障害のある成人の看護 [1] 1) 生殖器障害; 前立腺がん・子宮がん患者の看護	疾患で学んだことを復習し講義に臨む
第13回	機能障害のある成人の看護 [2] 1) 食道発声法 2) 腹腔鏡手術	疾患で学んだことを復習し講義に臨む
第14回	各種治療を受ける成人の看護 [1] 1) 化学療法 2) 輸血療法	化学療法とはどのようなものか調べる
第15回	各種治療を受ける成人の看護 [2] 1) 放射線治療	放射線治療にはどのようなものがあるか調べる

### ■履修上の注意

教科書をよく読んで、講義に臨むこと。  
既習学習を基に、自分の中で看護を発展していくこと。  
学生自ら学ぶ、という姿勢を尊重した講義・演習となる。

### ■評価方法

筆記試験70%、技術演習、課題レポート30%により、評価する。

### ■教科書

- 1) 矢永勝彦編集：系統看護学講座；臨床外科看護総論、医学書院
- 2) 道又元裕他：系統看護学講座；クリティカルケア看護学、医学書院
- 3) 村上美好：写真でわかる臨床看護技術、インターメディカ
- 4) 系統看護学講座、医学書院、消化器・循環器・女性生殖器も使用

### ■参考書

講義の中で適宜提示する。

科目名	成人看護援助論Ⅲ			担当教員 (単位認定者)	白尾 久子 他	単位数	1
対象学年	2 (後期)	授業方法	講義・(演習)・実習		必修・選択		必修

### ■授業の到達目標・期待される学習効果

成人期の対象における看護の実践方法をエビデンスに基づき導きだす方法を習得する

### ■授業の概要

成人看護過程の教授を行う。成人臨床看護論を基盤とし看護モデル活用を行って成人看護過程の演習を行う。さらに成人看護学実習に反映させる。

### ■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	科目オリエンテーション 事例紹介(内科的治療を行う事例) 看護過程における看護診断(講義)	
第2回	看護診断における領域・類の構成(講義)	テキストを予習
第3回	アセスメントガイドの説明 事例を元にアセスメント用紙を用いて情報を整理する方法(講義)	事例を理解するための学習
第4回	事例を元にアセスメント用紙に情報の整理(演習)	中範囲理論を活用し規定用紙に情報を整理してくる
第5回	事例を元にアセスメント用紙に情報の整理(演習)	中範囲理論を活用し規定用紙に情報を整理してくる
第6回	整理した情報の確認 仮診断から看護問題を導き出すための方法(講義)	病態関連図を作成してくる
第7回	全体像(関連図)の作成(演習)	
第8回	看護診断の実際〔1〕 リンケージ・NOCを用いて整理した情報から看護診断を行う(演習)	情報からどのような看護診断が下せるか検討し来る
第9回	看護診断の実際〔2〕 リンケージ・NOC・NICの活用方法し、看護目標を設定、看護介入(講義)	
第10回	看護診断の実際〔3〕 リンケージ・NOC・NICの活用方法し、看護目標を設定(演習)	看護介入方法を検討してくる
第11回	看護診断の実際〔4〕 NICを用いた活動計画の立案(演習)	
第12回	看護診断の実際〔5〕 看護活動の評価・修正、経過記録(講義)	事例を理解するための学習
第13回	看護診断の実際〔6〕 看護活動、経過記録の作成(演習)	看護介入方法、経過記録を作成してくる
第14回	看護診断の実際〔7〕 事例紹介(手術療法を行う事例)、共同問題、クリニカルパス(講義)	共同問題、クリニカルパスについて予習
第15回	まとめ(講義)	質問等を準備

### ■履修上の注意

- 1) 看護過程の展開について想起するとともに、既習のヘルスプロモーション・成長発達理論・ストレス・コーピング理論、危機理論・セルフケア理論などをフルに活用して成人看護学で学習すべき内容の統合を図る。よって既習学習を十分復習して臨むこと。
- 2) 本講義は、学生が自ら、講義で行ったことを復習し実際に看護過程を展開してみることによって理解を促す科目であるため、課題には必ず取り組み、事前に理解できたことを確認しておくこと。
- 3) 課題を達成してこない場合は授業に参加できないので注意すること。

### ■評価方法

筆記試験50%、課題レポート50%により評価する。

### ■教科書

- 1) NANDA - NOC - NIC 理解第4版 黒田裕子 (著)
- 2) NANDA-I 看護診断一定義と分類
- 3) 看護診断・成果・介入 NANDA, NOC, NIC のリンケージ
- 4) 看護成果分類 (NOC) —看護ケアを評価するための指標・測定尺度
- 5) よくわかる中範囲理論 黒田裕子監修 Gakken
- 6) 看護診断を読み解く 中木高夫著 Gakken 他

### ■参考書

基礎から学ぶ看護過程と看護診断、ロザリンダ・アルファロールフィーヴァ著江本愛子監訳 医学書院  
これなら使える看護診断 江川隆子編集 医学書院 他



科目名	成人看護援助論Ⅳ			担当教員 (単位認定者)	平賀 元美 他	単位数	1
対象学年	2(後期)	授業方法	講義・演習・実習		必修・選択		必修

### ■授業の到達目標・期待される学習効果

1. 成人期のあらゆる健康レベルの対象を理解し、健康特性にあわせた看護実践能力を学習する。
2. 対象の症状や状態、経過や治療にあわせた看護実践理論を学習する。
3. 意識障害や生命危機状態にある患者の看護を実践できる能力を身に付ける。
4. 生活の再調整・再構築のために必要な基本的援助技術を習得する。

### ■授業の概要

- 1) 成人看護に必要な援助技術の理論と実際を教授する。基礎看護技術論をベースに対象特性、疾病特性を加味した援助技術を教授する。
- 2) 疾患を持つ患者と家族への看護方法などについて、対象特性や疾病特性および援助の根拠とともに学習し、演習を通し看護実践能力の向上を目指す。
- 3) 治癒困難な終末期の患者の看護を実践できる判断能力を身に付ける。

### ■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	科目オリエンテーション A. 治癒困難な終末期の患者の看護〔1〕 1) 肺炎患者の看護 2) 閉塞性肺疾患患者の看護	肺の構造と機能を理解して講義に臨む
第2回	A. 治癒困難な終末期の患者の看護〔2〕 1) 検査 2) 吸入 3) 酸素療法 4) 観察とアセスメント	肺疾患患者の症状を調べておく
第3回	A. 治癒困難な終末期の患者の看護〔3〕 1) 肺がん患者の看護	肺がんの疾患の知識を得ておく
第4回	A. 治癒困難な終末期の患者の看護〔4〕 <演習> 1) 観察とアセスメント 2) フィジカルアセスメント 3) 呼吸音の聴取	根拠を調べておく ポイントをまとめる
第5回	A. 治癒困難な終末期の患者の看護〔5〕 1) 呼吸訓練 2) 呼吸理学療法	安楽な呼吸のための具体策を復習する
第6回	A. 治癒困難な終末期の患者の看護〔6〕 1) 低圧持続吸引器の管理 2) 胸腔ドレナージ	演習を含めて学ぶので準備しておく
第7回	B. 生活行動に障害のある成人の看護〔1〕 1) 脳血管障害のある患者の観察とアセスメント	
第8回	B. 生活行動に障害のある成人の看護〔2〕 1) 脳出血・脳梗塞患者の看護 2) 脳室ドレナージ	
第9回	B. 生活行動に障害のある成人の看護〔3〕 1) 脳血管障害のある患者の回復に向けての援助 2) 脳腫瘍、脳挫傷の患者の看護	
第10回	B. 生活行動に障害のある成人の看護〔4〕 ・生活行動のアセスメント ・骨折時の看護(固定、ギプス固定)	人体構造機能学の復習を十分にしておく
第11回	B. 生活行動に障害のある成人の看護〔5〕 ・骨折時の看護(牽引、観血的整復術、松葉杖)	
第12回	B. 生活行動に障害のある成人の看護〔6〕 ・治療による行動制限と看護(安静療法、神経麻痺)	
第13回	B. 生活行動に障害のある成人の看護〔7〕 ・職業生活にかかわるセルフケア(脊髄損傷の人の看護)	神経系の復習をしておく
第14回	B. 生活行動に障害のある成人の看護〔8〕 ・職業生活にかかわるセルフケア(脊髄損傷の人の看護)	
第15回	B. 生活行動に障害のある成人の看護〔9〕 ・役割の再獲得と維持(リハビリテーション)	

### ■履修上の注意

教科書をよく読んで、講義に臨むこと。  
既習学習を基に、自分の中で看護を発展していくこと。  
学生自ら学ぶ、という姿勢を尊重した講義・演習となる。

### ■評価方法

筆記試験80%、技術演習、課題レポート20%により、評価する。

### ■教科書

- 1) 浅野浩一郎他：系統看護学講座；成人看護学〔2〕呼吸器 医学書院
- 2) 竹村信彦他：系統看護学講座；成人看護学〔7〕脳・神経 医学書院
- 3) 織田弘美他：系統看護学講座成人看護学〔10〕運動器 医学書院

### ■参考書



科目名	臨床看護学実習Ⅰ (成人老年・慢性期)		担当教員 (単位認定者)	平賀・白尾・ 赤石 他	単位数	2
対象学年	2	授業方法	講義・演習・ <b>実習</b>	必修・選択	必修	

#### ■実習の目的または到達目標

##### <ねらい>

成人看護学実習は、学内で学んだ成人看護学の知識、技術、態度を臨床の場で統合し、体験を通して学ぶものである。この実習では、社会的役割において責任の重い成人期、向老期にある入院患者を受け持ち、科学的思考を基盤とした看護診断を用いて、家族を含めた対象者の回復過程に必要な看護実践として、診療を補助し日常生活が円滑に行われるように援助することを学ぶ。

さらに、回復過程において特徴的な治療や看護介入の場面の見学や、社会復帰に向けての他職種との連携場面の見学、グループメンバーや医療従事者とのカンファレンスを通して、実践的看護にふれる機会を持ち、看護の在り方を追求する姿勢を身につけることをねらいとする。

##### <目的>

成人期にある対象の健康のあらゆる段階の問題を理解し、健康の維持・増進、回復・社会復帰に向けた看護の基礎的実践能力を養う。

##### <目標>

- 1) 成人期の特徴を踏まえ、急性期・回復期・慢性期にある対象および家族を総合的に理解できる。
- 2) 看護診断を活用して、科学的思考を踏まえた看護の展開能力を身につける。
- 3) 各健康段階にある対象に対してセルフケアの促進及び再獲得、生命の維持回復に向けた援助、心身の安楽に向けた援助が実践できる。
- 4) 対象を支える家族の役割を理解し、家族に対する援助の必要性を理解できる。
- 5) 対象のQOLを考慮した継続看護の必要性、援助の在り方が理解できる。
- 6) 保健医療福祉チームにおける看護の役割が理解できる。

#### ■実習履修要件

1. 成人看護学概論・看護基礎実習Ⅰ及びⅡの単位の修得
2. 成人看護援助論Ⅰ・成人看護援助論Ⅱ・成人看護援助論Ⅲ・成人看護援助論Ⅳの単位認定の受験資格要件を満たしていること

#### ■実習時期及び実習日数・時間

1. 実習要綱 オリエンテーション用紙参照 (別途配布する)
2. 1グループ5～6名で2週間(90時間)の病棟実習をする
3. 期間:2年後期で実施する
4. 施設:指定された病院 (別途提示する)

#### ■実習上の注意

1. 別紙実習要綱を参照し、実習に臨む。
2. 欠席しないよう体調管理をして実習に臨む。
3. 既習学習内容を復習して、実習に臨む。

#### ■評価方法

1. 別紙実習要綱参照
2. 実習内容及び実習中の態度・提出記録・出席状況など踏まえて総合的に判断する。

科目名	臨床看護学実習Ⅱ (成人老年・急性期)		担当教員 (単位認定者)	平賀・白尾・ 赤石 他	単位数	4
対象学年	2	授業方法	講義・演習・ <b>実習</b>	必修・選択	必修	

### ■実習の目的または到達目標

#### <ねらい>

成人看護学実習は、学内で学んだ成人看護学の知識、技術、態度を臨床の場で統合し、体験を通して学ぶものである。この実習では、社会的役割において責任の重い成人期、向老期にある入院患者を受け持ち、科学的思考を基盤とした看護診断を用いて、家族を含めた対象者の回復過程に必要な看護実践として、診療を補助し日常生活が円滑に行われるように援助することを学ぶ。

さらに、回復過程において特徴的な治療や看護介入の場面の見学や、社会復帰に向けての他職種との連携場面の見学、グループメンバーや医療従事者とのカンファレンスを通して、実践的看護にふれる機会を持ち、看護の在り方を追求する姿勢を身につけることをねらいとする。

#### 1. 実習目的

健康の危機状況にある対象の特徴を理解し、全身状態の改善と合併症予防に努め、苦痛の緩和・早期回復に向けての看護ができる。

#### 2. 実習目標

- 1) 急性期・回復期にある患者および家族の特徴が述べられる。
- 2) 身体侵襲を伴う治療を必要とする患者への看護の方向性を見いだせる。
- 3) 周手術期にある患者の看護が出来る。
  - ①手術を受ける患者の身体的精神的準備と周手術期における経過がわかる。
  - ②手術中の安全管理と看護の役割がわかる。
- 4) 回復期におけるセルフケア再獲得に向けた援助ができる。
  - ①手術後の回復過程を過ごす患者に必要な看護ができる。
  - ②セルフケアを必要とする患者に指導ができる。
  - ③失われた機能を受容し生活の再構築に取り組む患者および家族への看護がわかる。
- 5) 生命の危機状態にある対象（救急外来・救急病棟・集中治療室などの）において、必要な医療や看護の場の特徴が理解できる。

### ■実習履修要件

1. 成人看護学概論・成人看護援助論Ⅰ・成人看護援助論Ⅱ・成人看護援助論Ⅲ・成人看護援助論Ⅳ・看護基礎実習Ⅰ及びⅡ・臨床看護学実習Ⅰの単位を修得しているもの

### ■実習時期及び実習日数・時間

1. 実習要綱 オリエンテーション用紙参照（別途配布する）
2. 1グループ5～6名で4週間（180時間）の病棟実習をする
3. 期間：3年前期で実施する
4. 施設：指定された病院（別途指示する）

### ■実習上の注意

1. 別紙実習要綱を参照し、実習に臨む。
2. 欠席しないよう体調管理をして実習に臨む。
3. 既習学習内容を復習して、実習に臨む。

### ■評価方法

1. 別紙実習要綱参照
2. 実習内容及び実習中の態度・提出記録・出席状況など踏まえて総合的に判断する。

科目名	老年看護学概論		担当教員 (単位認定者)	橋本 知子	単位数	1
対象学年	2(前期)	授業方法	講義・演習・実習	必修・選択	必修	

■授業の到達目標・期待される学習効果

1. 老年看護学にかかわる基礎知識を学ぶ。
  2. 老年看護学と他の学問領域との関連性やその歴史的背景を理解する。
  3. 老年看護の目的並びにその課題を理解する。
- 1～3を通して高齢社会の看護を発展的にとらえられる。

■授業の概要

世界が高齢社会を迎えている今日、高齢者の抱える身体的・精神的・社会的・霊的な問題を統計的に概観しながら、社会が抱える高齢者問題を整理し、看護の視点でとらえられるようにその基礎的な知識を学ぶ。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	科目オリエンテーション 高齢者社会の統計的特徴(1) (わが国の高齢化、高齢化率、高齢化の要因、後期高齢者の増加に伴う問題、高齢者世帯の増加と生活)	老年看護学、医学書院、 第2章 p20-23の予習・復習をする
第2回	高齢者社会の統計的特徴(2) 高齢者の健康状態と暮らし、病気の特徴、高齢者の死因、高齢者の個別性、社会情勢の変化に伴う課題	第2章 p29-32の予習・復習をする
第3回	高齢社会における保健医療福祉制度の動向(1) (老人福祉法の変遷、ゴールドプラン、新ゴールドプラン、ゴールドプラン21)	第2章 p32-46の予習・復習をする
第4回	高齢社会における保健医療福祉制度の動向(2) (介護保険法の成立の背景、改正とサービス、高齢者のための保健・福祉活動)	第2章 p46-52の予習・復習をする
第5回	高齢社会における権利擁護(1) (スティグマ、エイジズム、高齢者虐待；虐待の分類、実態、発生メカニズム、防止法)	第2章 p53-58の予習・復習をする
第6回	高齢社会における権利擁護(2) (身体拘束、権利擁護のための制度；法定後見人制度、日常生活支援法)	第3章 p46-70の予習・復習をする
第7回	老年看護の理念並びに老年看護の視点 (目的、目指すもの、実践の特徴、高齢者の自立支援、倫理、責務、国連原則)	第7章 p310-343の予習・復習をする
第8回	長寿社会を生きる社会生活の条件や地域資源を活用した看護の展開 (ヘルスプロモーション、サクセスフルエイジング、老いのプロセスと生活の場、高齢者の性と結婚)	第7章 p332-334の予習・復習をする

■履修上の注意

老年看護の基礎となる科目です。既修科目である人体構造機能学Ⅲ(老性特性)、人間の成長発達と障害、看護と福祉の連携はもとより、基礎看護学で学修した基礎知識を想起して新知識を統合しながら学んで欲しいと思います。教科書は予習・復習のために使用し、配布された資料等は理解を深めるためのものです。ノートに整理しながら活用してください。

■評価方法

試験90%、レポート10%、出席状況等を総合的に評価

■教科書

系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 医学書院

■参考書

老年看護学 概論と看護の実践 NOUVELLE HIROKAWA, 国民衛生の動向

科目名	老年看護援助論Ⅰ			担当教員 (単位認定者)	丸井 明美	単位数	1
対象学年	2	授業方法	講義・(演習)・実習		必修・選択	必修	

### ■授業の到達目標・期待される学習効果

- ・高齢者に特徴的な疾患・症状についてアセスメントできる
- ・加齢による変化が日常に及ぼす影響を知り、高齢者の生活を整える援助が理解できる
- ・疾病や病態の特性を理解し、障がいを持った高齢者に対する看護援助方法が理解できる

### ■授業の概要

老年看護学概論および人体構造機能学Ⅲ(老年特性)の知識をもとに、高齢者看護の援助について学習する。具体的には、老年期の生理的加齢現象が高齢者に及ぼす影響を考え、日常生活を整える看護について学びを深める。さらに、健康障がいを併せ持つ高齢者の疾患・症状の特徴を理解し、高齢者のQOLを高めるべく、健康逸脱からの回復と終末期を支える看護を総合的に展開できる看護援助方法について学ぶ。

### ■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	科目オリエンテーション/日常生活を支える基本動作と看護ケア	体位交換、歩行・移乗動作・姿勢等の基本動作について復習、p124-135
第2回	転倒のアセスメントと看護ケア/廃用症候群のアセスメントと看護ケア	転倒の要因と骨折について復習、寝たきりに対する心身の変化についてp136-146を読んで予習
第3回	高齢者の排泄ケアと清潔ケア(尿失禁・便秘)(ドライスキン)	失禁と便秘のメカニズムについて復習、p159-184予習、高齢者に特徴的な皮膚疾患について復習
第4回	高齢者の食事と看護ケア(低栄養(PEM)・摂食・嚥下機能の変調・口腔ケア)	摂食・嚥下のメカニズムと肺炎、低栄養についてp147-159,214-219(検査値も)予習と復習、ケアの実践のため基礎看護学で学習した口腔ケアについて復習しておく
第5回	高齢者の口腔ケアの実際	
第6回	高齢者の生活リズムと看護ケア(睡眠と覚醒、休息と活動) / 高齢者に特徴的なコミュニケーション障がいと看護ケア	睡眠のメカニズムと薬物(睡眠薬・抗てんかん薬・抗うつ薬・降圧剤、抗ヒスタミン薬)の作用・副作用について復習、p185-210を予習
第7回	検査・治療、手術療法を受ける高齢者の看護	p212-p214, p220-p234まで教科書をよく読んで高齢者の特徴を予習する
第8回	脳・神経系に障がいがある高齢者の看護(脳卒中、パーキンソン病、パーキンソン症候群)	脳卒中・パーキンソン病について復習 p234-235、p240-243予習
第9回	循環器・呼吸器に障がいがある高齢者の看護(虚血性心疾患、心不全、閉塞性肺疾患)	心不全・COPDについて復習、その他の授業資料の復習 p237-240 p244-248予習
第10回	感染症状がある高齢者の看護(インフルエンザ、誤嚥性肺炎、感染性胃腸炎)	インフルエンザ・肺炎・感染性胃腸炎、その他の感染症について復習 p243-249予習
第11回	運動機能に障がいがある高齢者の看護(骨粗鬆症、骨折、褥瘡)	骨粗鬆症、大腿骨頭部骨折、褥瘡の予防と看護について復習 p250-263予習
第12回	認知機能に障がいがある高齢者の看護(認知症)	認知症について調べ学習とグループ発表の準備 p277-296予習
第13回	認知機能に障がいに対する看護(うつ、せん妄) 高齢者のリスクマネージメント(医療安全・災害看護)	うつとせん妄のケア、病院・施設におけるリスクマネージメント p263-276 p346-364予習
第14回	終末期にある高齢者と家族の看護	p297-307をよく読んで高齢者の終末期医療について考えを深めておく
第15回	高齢者に特徴的な疾患・症状についてのアセスメントと高齢者に対する看護援助方法のまとめ	授業で使用した資料、教科書をよく読んで、自分なりに要点をまとめたノートを見直す

### ■履修上の注意

高齢者に特徴的な疾患・症状についてのアセスメントと看護を学ぶため、老年看護学概論および人体構造機能学Ⅲ(老年特性)の復習をしておくこと。また疾患の病態生理・治療と基礎看護学での生活援助の知識や演習内容の復習も必要である。高齢者がよりよく生活するための看護援助方法考えましょう。また、高齢者を取り巻く問題について新聞やニュース等を意識し、自分なりの考えを深めて下さい。

### ■評価方法

定期試験90%、レポート10%

### ■教科書

- ・系統看護学講座専門分野Ⅱ 老年看護学(医学書院)
- ・系統看護学講座専門分野Ⅱ 老年看護病態・疾患論(医学書院)

### ■参考書

- ・生活機能からみた老年看護過程(医学書院)



科目名	老年看護援助論Ⅱ			担当教員 (単位認定者)	丸井 明美、 橋本 知子 他	単位数	1
対象学年	2	授業方法	講義・演習・実習		必修・選択		必修

### ■授業の到達目標・期待される学習効果

- ・看護過程で用いる生活行動モデルを理解することができる。
- ・大腿骨頸部骨折の回復過程にある高齢者の看護過程を展開することができる。
- ・立案した計画をもとに、模擬患者に対して適切な看護援助を実践することができる。

### ■授業の概要

- ・本科目では、高齢者看護に必要な援助を実践、考察するための展開方法や援助技術を学びます。前半は、軽度認知症がある高齢者が骨折で入院した事例を基に、退院に向けた看護過程の展開を通して学んでいきます。後半は、立案した計画を基に対象に必要な看護援助を実践し、評価・修正まで行います。

### ■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	科目オリエンテーション / 高齢者の看護過程展開における特徴 高齢者看護に用いられる看護理論	高齢者の看護過程の特徴のまとめ 教科書 P366～378
第2回	高齢者の看護過程展開における柱となる枠組みについて <軽度認知症のある大腿骨頸部骨折患者の事例>オリエンテーション	
第3回	看護過程演習①(グループワーク)情報の整理・アセスメント	・看護過程GWを進めるにあたり必要な学習
第4回	看護過程演習②(グループワーク)情報の整理・アセスメント	・課題学習(情報整理・アセスメントのまとめ)
第5回	看護過程演習③(グループワーク)病態・生活関連図の作成	・看護過程GWを進めるにあたり必要な学習
第6回	看護過程演習④(グループワーク)看護の焦点の明確化・優先順位の決定	・課題学習(病態・生活関連図、看護の焦点、優先順位)
第7回	看護過程演習⑤(グループワーク)看護計画立案	・看護過程GWを進めるにあたり必要な学習
第8回	看護過程演習⑥(グループワーク)グループ援助計画シートの作成 演習発表オリエンテーション	・課題学習(看護計画・援助計画)
第9回	看護過程演習⑦(グループで展開した対象への援助実施;口腔ケア/嚥下促進他)	・援助計画実施準備
第10回	看護過程演習⑧(グループで展開した対象への援助実施;褥創ケア/体位変換他)	・ケアに必要な技術の復習
第11回	看護過程演習⑨(グループで展開した対象への援助実施;尿失禁/清潔ケア他)	・援助計画実施準備
第12回	看護過程演習⑩(グループで展開した対象への援助実施;コミュニケーション他)	・ケアに必要な技術の復習
第13回	グループ演習発表①	発表の準備
第14回	グループ演習発表②	発表の準備
第15回	高齢者の看護過程のまとめ	

### ■履修上の注意

- ・看護過程展開グループワークの参加には事前学習が前提となります。グループの一員として効果的な進行ができるよう予習復習を必ず行って臨んで下さい。また、課題学習は提出期限を厳守するようにしてください。
- ・出欠席は厳密に確認します。やむを得ず欠席する場合は、学習に支障をきたさぬよう事前対応を心掛けて下さい。

### ■評価方法

- ①演習個人・グループ活動(参加度、積極性、看護技術、記録内容、発表等)
  - ②個人看護過程展開記録
- ・①～②を総合的に評価する

### ■教科書

- ・系統別看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学(医学書院)
- ・生活機能からみた老年看護過程(医学書院)

### ■参考書

必要に応じて適宜指示する

科目名	老年看護学実習Ⅰ		担当教員 (単位認定者)	橋本 知子 丸井 明美 他	単位数	2
対象学年	2	授業方法	講義・演習・ <b>実習</b>	必修・選択	必修	

### ■実習の目的または到達目標

#### 実習目的

高齢者の特性と個別性を考慮した支援の方法と保健・医療・福祉システムの理解を深め、施設での看護の役割・機能及び看護の基礎的実践力と看護職としての態度・姿勢を養う。

#### 実習目標

- 1) 高齢者の身体的・精神的・社会的特徴を理解する。
- 2) 認知症など的高齢者の特性を踏まえたコミュニケーションの方法を理解する。
- 3) 高齢者の特性を踏まえた生活の課題や支援の方法を理解する。
- 4) 他職種との連携を通して、施設における看護の役割・機能について理解する。
- 5) 高齢者と家族を取り巻く保健・医療・福祉システムを理解する。
- 6) 高齢者の人権を尊重する態度を養い、高齢者観を深めることができる。

### ■実習履修要件

以下の要件をすべて満たしている者が、老年看護学実習に臨むことができる。

1. 看護基礎実習Ⅰ及びⅡの単位の修得
2. 老年看護学概論の単位修得
3. 老年看護援助論Ⅰ・Ⅱの単位認定に関する受験資格を満たすこと

### ■実習時期及び実習日数・時間

実習期間： 2年後期において実施する。

実習時間： 90時間を基本とする。

### ■実習上の注意

実習要項（共通及び老年看護学実習）を参照し、遵守すること。

### ■評価方法

- 1) 方法  
指定された評価表を用いて、学生が自己評価、実習指導者の助言のもとに担当教員が最終評価を行う。
- 2) 基準と判定  
判定基準に添って、知識（事前学習、課題学習、実習記録）・技術・態度を総合的に評価していく。



科目名	老年看護学実習Ⅱ			担当教員 (単位認定者)	橋本 知子 丸井 明美 他	単位数	2
対象学年	2	授業方法	講義・演習・ <b>実習</b>	必修・選択	必修		

#### ■実習の目的または到達目標

##### 実習目的

多様で個別的な健康障害がある高齢者とその家族を総合的に理解し、健康の回復・維持・増進を図る看護を実践するための基礎的能力を養う。

##### 実習目標

- 1) 高齢者の健康障害と特性、個別性、治療を踏まえ、対象および家族のニーズに即した看護過程の展開ができる。
  - ① 高齢者の健康障害と特性、個別性、治療を考慮し、生活行動モデルに即した枠組みで必要な情報を収集することができる。
  - ② 生活行動モデルの枠組みで、高齢者を総合的にアセスメントできる。
  - ③ 高齢者の健康障害のレベル、個別性、もてる力を考慮した看護計画を立案できる。
  - ④ 看護計画に基づき安全・安楽を考慮した看護が実践できる。
  - ⑤ 実践した看護を客観的に評価することができる。
  - ⑥ 評価に基づき、具体策を追加・修正できる。
- 2) 高齢者および家族が必要としている社会資源が理解できる。
- 3) 医療チームメンバーとの連携を通して、期待される看護の役割を理解できる。
- 4) 継続看護の必要性が理解できる。
- 5) 高齢者の人権を尊重する態度と高齢者観を深め、今後の自己課題を明確にできる。

#### ■実習履修要件

以下の要件をすべて満たしている者が、老年看護学実習に臨むことができる。

1. 看護基礎実習Ⅰ及びⅡの単位の修得
2. 老年看護学概論の単位修得
3. 老年看護援助論Ⅰ・Ⅱの単位認定に関する受験資格を満たすこと

#### ■実習時期及び実習日数・時間

実習期間： 2年後期において実施する。

実習時間： 90時間を基本とする。

#### ■実習上の注意

実習要項（共通及び老年看護学実習）を参照し、遵守すること。

#### ■評価方法

- 1) 方法  
指定された評価表を用いて、学生が自己評価、実習指導者の助言のもとに担当教員が最終評価を行う。
- 2) 基準と判定  
判定基準に添って、知識（事前学習、課題学習、実習記録）・技術・態度を総合的に評価していく。

科目名	看護活動におけるメンバーシップ・リーダーシップ		担当教員 (単位認定者)	福山 なおみ	単位数	1
対象学年	3	授業方法	講義・演習・実習	必修・選択	必修	

### ■授業の到達目標・期待される学習効果

看護活動の場において展開される看護管理(マネジメント)の基本と原則を習得し、具体的メンバーシップ・リーダーシップ事例を用いて自らの傾向を知り、卒業後看護活動の場で活用することができる。

### ■授業の概要

看護の機能するあらゆる場における看護管理の基本的あり方について考え、日本および諸外国において行われている看護管理のありかたを検討し、さらに、看護の現場におけるメンバーシップ・リーダーシップ役割について学ぶ。

### ■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	科目オリエンテーション ・経営管理の歴史と看護管理への影響 ・看護マネジメントの定義 ・看護活動の場とマネジメントの必要性と目的	なぜ、看護マネジメントが必要なのか、経営管理の歴史と看護管理への影響についてレポートする。
第2回	病院における看護部組織と看護マネジメント 病院経営における看護職のありかた チーム医療における看護メンバーシップとリーダーシップ	病院経営になぜメンバーシップ・リーダーシップが必要なのかをレポートする。
第3回	リーダーシップの定義 リーダーシップスタイル リーダーシップ理論とリーダー行動の分類	リーダーシップ理論とリーダー行動の分類について具体例を挙げてレポートする。
第4回	ドラッカーのマネジメントー基本と原則(1)	事前に読んでおく。 事例を用い、基本と原則を理解する。
第5回	ドラッカーのマネジメントー基本と原則(2)	ドラッカーから学んだ看護への示唆についてレポートする。
第6回	ロールプレイング 事例を活用	事例を読んでおく。 ロールプレイで気づいた自己のメンバーシップ・リーダーシップの傾向をレポートする。
第7回	グループワーク 学生たちが考える「看護活動におけるメンバーシップ・リーダーシップ」について	検討した内容をまとめる。 次回のプレゼンテーションの準備をする。
第8回	プレゼンテーション グループワークで検討した学びを発表	各グループ発表を聞いて、新たに学んだことを記述する。 授業で学んだことをレポートする。

### ■履修上の注意

- ・さまざまな看護活動におけるメンバーシップ・リーダーシップ事例を紹介し、将来の看護活動に活用できるよう積極的参加を希望する。
- ・これまで体験したメンバーシップ・リーダーシップ事例を活用しながら学びを深化・展開できるよう予習・復習をすること。

### ■評価方法

- ・授業態度10%、出席状況10%、課題レポート80%等により、総合的に評価する。

### ■教科書

P.F.ドラッカー；上田惇夫編訳：マネジメントー基本と原則、ダイヤモンド社、2011

### ■参考書

Gilles.D.A;矢野正子監訳：看護管理、システムアプローチ、医学書院サウンダース、1986  
授業内で適宜紹介する。

科目名	感染・災害看護と危機管理 (国際協力を含む)		担当教員 (単位認定者)	平賀 元美	単位数	1
対象学年	3(後期)	授業方法	(講義)・演習・実習		必修・選択	必修

■授業の到達目標・期待される学習効果

医療安全に基づいて感染予防の実践をするうえでの基礎となる概念を理解し、院内感染の実際とその防止策を理解する。  
災害時の看護の考え方とDMATといった医療チームとしての看護の役割について理解し、さらに救命救急時の対処を理解する。  
諸外国における看護の現状と国際協力を行う日本の立場を理解し、海外での支援の在り方を考える。

■授業の概要

感染看護については感染予防の観点での看護実践を理解する。特に院内感染の防止方法に関する看護活動に焦点を当てる。  
災害看護については災害時の看護の考え方とDMATの看護の役割について理解し、さらに救命救急時の対処について学ぶ。  
国際看護については国際協力を行っている立場での日本の位置づけと海外での支援の在り方について学ぶ。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	科目オリエンテーション 医療安全・感染防止の実践の基礎となる理論[1] リスクマネジメント	感染予防の考え方について復習をすること
第2回	医療安全・感染防止の実践の基礎となる理論[2] インフェクションコントロール	
第3回	臨床における感染看護[1] 臨床における感染の危険性と看護の役割	
第4回	臨床における感染看護[2] 臨床における感染予防	公立藤岡総合病院の看護師から感染看護の実際を聞く
第5回	災害看護と看護の役割[1] 災害の種類と健康障害	
第6回	災害看護と看護の役割[2] 災害看護の特徴と看護活動	
第7回	被災地での看護活動 DMATの活動の仕方	公立藤岡総合病院の看護師から災害看護の実際を聞く
第8回	救命救急における看護活動[1]	
第9回	救命救急における看護活動[2]	藤岡消防署の協力によって救急蘇生法を体験する
第10回	救命救急における看護活動[3]	
第11回	国際社会における日本の看護の役割 グローバリゼーション ICN 異文化理解と看護活動	
第12回	保健医療の国際協力 WHO ODA	
第13回	国際看護活動の実際[1](青年海外協力隊)	
第14回	国際看護活動の実際[2](JICA, 政策的国際協力)	看護職として国際協力に関わった人から話を聞く
第15回	国際看護活動の実際[3](JICA, 政策的国際協力)	

■履修上の注意

人体構造機能学を復習しておくこと。  
消防署による救急蘇生法は、修了証を出す予定

■評価方法

筆記試験及び実技80%、課題レポート20%により評価

■教科書

- 1) 坂本史衣：基礎から学ぶ医療関連感染対策 南江堂
- 2) 辺見 弘：看護の統合と実践② 災害看護学 メヂカルフレンド社
- 3) 田村やよひ：看護の統合と実践③ 国際看護学 メヂカルフレンド社

■参考書

科目名	看護研究概論			担当教員 (単位認定者)	櫻井 美和	単位数	1
対象学年	3 (前期)	授業方法	(講義)・演習・実習	必修・選択		必修	

■授業の到達目標・期待される学習効果

1. 看護研究の特徴（定義、種類、方法、一連の過程）を理解する
2. 看護研究における倫理的配慮の重要性を理解し、研究対象者の人権を擁護するために必要不可欠な研究者としての態度や行動を考察する
3. 上記1・2の学習を通じ、実践科学としての看護研究の意義、あり方について考察する
4. 看護研究に研究的・主体的態度で臨むことの重要性を理解するとともに、看護研究を実施するための自らの課題を明確にする。

■授業の概要

看護研究の意義、目的、実践科学としての看護研究の特徴やあり方について理解し、看護研究を実施するために必要な基礎的能力を習得する。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	科目オリエンテーション ・看護研究の定義、意義、看護実践と看護研究の関係	教科書の該当箇所を精読する
第2回	看護研究の過程の概要 ・問題の発見と焦点化 ・研究の進め方	教科書の該当箇所を精読する
第3回	看護研究と倫理 [1]: ・看護研究における倫理的配慮 ・文献引用の基本的ルール	教科書の該当箇所を精読する
第4回	看護研究と倫理 [2]: ・研究対象者への研究説明書・同意書の作成	教科書の該当箇所を精読する【課題】 研究説明書・同意書を作成する
第5回	看護研究のタイプ [1]: ・看護研究における量的研究	教科書の該当箇所を精読する
第6回	看護研究のタイプ [2]: ・看護研究における質的研究	教科書の該当箇所を精読する
第7回	看護研究のタイプ [3]: ・看護研究における量質併用研究（ミックス法、トライアングレーション）	教科書の該当箇所を精読する
第8回	看護における研究の課題およびまとめ	教科書の該当箇所を精読する

■履修上の注意

1. 上記授業計画を参考に、教科書の該当箇所を精読した上で授業に臨む。
2. 授業中に提示された課題に真剣に取り組む。

■評価方法

授業態度・出席状況（10%）、課題レポート・小テスト（30%）、定期試験（60%）により総合的に評価する。

■教科書

1. 南裕子：看護における研究，日本看護協会出版会
2. 日本看護協会編集：日本看護協会看護業務基準集 2007年改訂版，日本看護協会出版会，2007。

■参考書

1. 日本看護協会監修：新版 看護者の基本的責務：定義・概念/基本法/倫理，日本看護協会出版会